# 愛國婦人

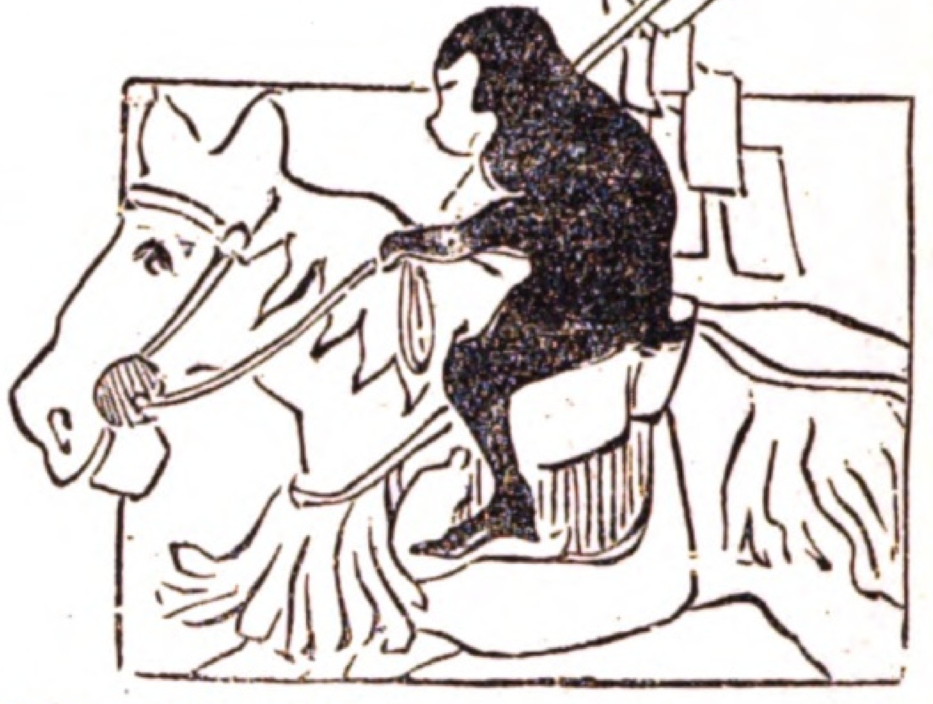
定價一部金參錢五厘
一ヶ月分金七錢
半年分金四拾貳錢
全國無料送料
廣告料一行六拾錢
本號全部禁轉載

毎月二回　五日廿日發行
發行所　東京麹町區(牛ヶ淵公園)　愛國婦人發行所
印刷兼發行人　山澤俊夫
編輯人　永持德一

發行所　東京麹町區牛ヶ淵公園　愛國婦人發行所　△振替貯金口座番號東壹壹余八壹番　●電話番町一五二〇 一七四五番

## 社説

## 下女(一)



出代の砌の美しき別れ――下女も家族の一員――下女更迭は家族の不名譽――下女に深切なれ――主婦は下女の教師――主婦の人格の感化――女子教育中の大事業

「出代りの畳に落す涙かな」。長々御厄介に預りました。それならこれで御暇を。どうか奥様にも御機嫌よろしふと、手をついたまゝ、後は得言はず、ポタリ／＼と、涙を畳におとすを見れば、奥様も胸ふさがりて、長々世話になりました。お前も用心してね。嫁いてからも、時々は便りをして、そして小いのが出來たら、連れて泊りがけにお出てと、母に別れ、娘に別るゝやう、互に名殘を惜みつゝ、大きなる風呂敷包みを背負ひて、下女の主家を立ち出づるは、あはれにも、またうるはしき光景ならずや。斯の道今人棄つること土の如し。人間我利々々の亡者となりて、人情の薄きこと、紙の如き世の中に、斯る厚き情誼を、主婦と下女との間に見んことは、或は無理かも知れざれども、何時までも保存したきは、この美風なり。

**下女も家族の一員**

世には、下女を牛馬の如く心得居るものあり。此の如きは、家庭に牛馬を置くわけにて、その家屋は如何に立派なりとも、つまり厩、牛小屋に外ならざるなり。古羅馬にて、ファミリア即ち家族なる語は、召使をも含めたるものにて、召使も家族の一人なりしなり。斯る觀念は今日ももちたきものにて、下女を家族の一人と思へば、自ら深切にせざるを得ず、下女もその氣になれば、家の爲めを思ひて、影日向なく働くべし。一家の整理は、臺所より始まる。下女の如何は、大なる家庭問題なり。

**下女更迭は家族の不名譽**

使はるゝものは、こちら次第のものにて、こちらの仕向け面白からざれば、向ふも十分のことはせぬものなり。いづれ下女に來るほどのものは、普通の教育あるは例外にて、無教育にて何も分らず、すべも知らざる者なれば、十分仕付ける積りにて、根氣よく、こらへて、使はざるべからず。それを來たその日より、おこり散らし、叱りとばしては、よく仕付けんことは、思ひも寄らず、こんな家ばかりでもあるまいと、三日とたゝぬ内に、喧嘩たら／＼。疊を蹴立てゝ出て行くべし。されば下女のよく代るは、家庭の不名譽にして、下女よりも家内が笑はるべし。

**下女に深切なれ**

下女は、朝から晩まで、家内の喧嘩相手に傭ひ入れたるものにあらず。されど中には、その積りらしく見ゆるものもありて下女が、一擧一動に注意し、一々口やかましく批評し、萬一口答へすれば、烈火の如く怒り、身をふるはして、おこりわめくものあり。何んたる了見にや。呆れた婦人もあるものかな。下女を言ひ負かしたりとて、どれほどの手柄ぞ。下女に惡しき所あらば、教育も受けず、物事の辨へも知らざる不便の者よと憐みて、深切に教へ導くべし。

**主婦は下女の教師**

下女の爲めには、家庭は、學校にして、主婦は教師ならざるべからず。一字も知らぬ者には、いろはより始めて、暇々に文字を教へ、子どもの使ひたる小學讀本をも、あらば與へて、漸次教ふべし。夜分などは、習字をもなさしめ、裁縫しながら、爲めになる話しをもして聞かすべく、裁縫も自分のする所を見せて、雑巾より始めて、出來ればゆがみなりにも、着物を縫へるまでにならしむべし。その本務たる炊爨、洗濯、拭き掃除の指圖をして、家事を練習せしむるは、云ふまでもなきことなり。人を教育するは、誠に樂みなるものにて、下女が自分の指導にて、追々物事の分り來るを見るは、主婦の大なる喜びなり。獨り主婦の喜びなるのみならず、その他日、嫁して家を治め、子女を教養するに當りて利益幾何ぞや。終世忘るべからざる恩人として、主婦は、感謝せらるべきなり。

**主婦の人格の感化**

この外殊に大切なるは、主婦の人格にて主婦は、常に上品に振舞ひて、立派なる道德上の模範を、下女に示すべし。世に模倣の力ほど大なるものなければ、主婦は、眞似られても、差支なきのみならず必ず眞似て貰ふやう、日頃の言行に注意すべきなり。

**女子教育中の大事業**

今日女子教育の隆盛なる、我が國未曾有のことなり。然れども、小學教育はしばらくおきて、その小學以上の教育を受くる女子の數は、如何に多く見積るも全國六七萬を出でざるべく、これを全國の下女の數に比すれば、その十分の一にも及ばざるなり。從つて彼れは數百の校舍と、數千の教師と、數百萬圓の費用とを以てして、その教育する所は、僅に六七萬の女子に過ぎざるも、此れは、家庭を校舍とし、主婦を教師とし、當然拂ふべき給金、食料とを費用とすれば、他に何物をも要せずして百萬に近かるべき女子―下女―を教育することを得るなり。天下此の如く有益にして、經濟なるものあらんや。國家、府縣、團體、法令、規則、校舍、教員、教科書と、大騒動して取扱ふ六七萬の女子と、家庭の中に一の要請もなく、騒動もなくして、たゞ運命の支配を待てる百萬に近き女子とは、教育上何れが重大なるものぞ。學校の卒業生のみが、妻となり、母となるものにあらず下女の教育は、國家の一大問題なり。女子教育中の大事業なり。しかもこの事業は、國家、法令、規則、校舍等の力に依るにあらずして、一に家庭の主婦の力に依るものなり。主婦の責任豈に容易ならんや。

### 閨秀百佳選

(其一)　大口鯛二大人評　戸塚湊子作

(其二)　大口鯛二大人評　稲垣きさ子作

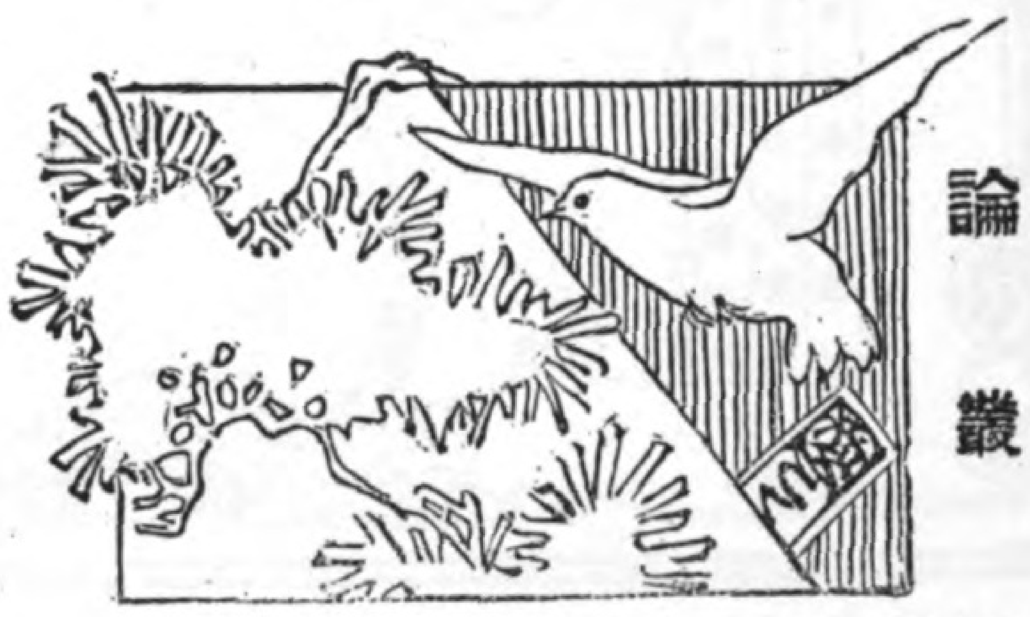
### 社告

女德論叢に挿んだ懸賞『不思議の繪はがき』第一回締切の結果は次號の誌上に發表致します。又『閨秀百佳選』の結果は御覧の如く本號から發表致しました。次號には佐々木信綱大人揮毫の分を掲げます。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論議



# 守分論(下)

統計事務官　呉文聰

## 守分とは何の謂ぞや

各人能く己れの分限を守りて之に安處するを云ふなり。凡そ各人の所得の增加して衣食住の上進するは人類の進步にして眞に慶賀すべき事なれど、衣食住の上進の爲めには生活難日に增加し、人々其生を安んずる能はざるに至るも亦た必然の結果なり。我國の如きも假に數十年前の如く粗酒粗食に甘んじ、綿服を纏ひ陋屋に棲み之に滿足せし時代には兄弟親族知舊の蜚來つて寄食するも、生活上甚しき故障とはならざりしを以て恰々として之を接遇するを得たりしなり。又彼の食客、今の所謂苦學生の如きも人々容易に之を養ひて其志を成さしめしは、人々の記憶する所なるべし。然るに今や物價は騰貴し、衣食住は上進し、其經費甚しく膨脹して、之れが爲め姻戚に窮困者あるも之を救濟するを得ず、悲哀の境遇に立てる篤志の少年あるも之をして其志を遂げしむるを得ず。是れ畢竟生活費の多大となりしが爲めに、一無用人を養育する事の容易ならざるに至りし明證なり。斯く生活困難となるに從ひ、人情刻薄となり、親族故舊に對しても些の溫情を有せず互に嫉視排擠して獨り自ら生活に裕ならんことを是れ欲す豈哀しからずとせんや。

又假りに人を救濟することありとするも斯く閉塞せし世なれば、數月又は數年を過ぐるも終に其者に自立の道なく、一たび慈手を接すれば遂に之を放つの期なく兩者情義一再相背けば初より救はざるの優れるに如かざるに至り、又學生等恩家の惠に依り幸に業を卒ふるも、是亦生活難に追はれ亦前日の恩を報ずるの餘地を存せず。

## 何故に生活が困難なるや

生活が何故に斯く困難なるやと云ふに、其一半は物價の騰貴に在り。現に主食たる米は勿論魚獸の肉を初め酢醬油酒より雜穀野菜に至るまで甚しき騰貴にして、之を數年前に比すれば數倍に上らざるものなく、衣服の如きは品種區々にして此に概言し難きも、其騰貴他の商品に準じ、又借屋料の如きも前年は十圓以下にて五六室を有する家屋を借り得たるも、今は同じほどの家は十五圓已上二十圓前後ならでは借り入るゝを得ず。是れ甚だ困難の事なり。然るに他の一半を顧みれば、世の風潮甚しく變遷し、食には肉無かるべからず、出づるに車なかるべからず、珈琲を要しチョコレートを要し、西洋菓子を要し果實を要し、ビール、葡萄酒、シャンパンサイダア、平野水、曰く何曰く何。是れ皆前日試みざりしものゝみ。其集會を催ふすに方りても、前日の會費は一二圓若しくは二三圓なりしもの、今は五圓七圓乃至は十數圓を要するに至り其衣服の如きも外出には多く絹布を用ひ靴を要し草履を要し表付の下駄を要し、而かも一足數圓甚しきは十數圓に至る。而して斯の如き驕奢の流行は、一半は其人の罪なるも他の一半は社會一般婚天の勢以て驕奢に赴き普通の人情にては其俗に倣はざれば以て交際來往するを得ず。彼れ始め此れ倣ひ終局する所なきに至る。窮せざらんと欲すといへども焉ぞ之を得んや。

## 守分と世間の流風

右二者の中物價の騰貴は人々之を如何ともするを得ざれど、流行を追ふて走らざること新奇を競はざること優等品にあらずとも之に滿足すること之を要するに分限を守り若しくは分限の一段下を守りて勘忍する事は必ずしも出來難き事にはあらざるべし。是れぞ一家に餘裕を生ずるの道にして國を愛する者の正に勉むべき所なり。抑も世間の流風なるものは、世人に貴み仰がれ又は注視せらるゝ一部の人の爲す所を見て之を似ぬるものなれば、我が婦人會の如く世間より仰ぎ視らるゝ人々にして其平生に質素を守らるれば、世間多數の徒も必ず之に倣ふべく又之に省みて其奢侈を警しむることゝなるべし。凡そ身分に應じたる生活は其人に取りては當然の事にして聊かも惡むべきにあらず、又惡しき事にはあらずといへども、出來得る人のする事は出來ぬものも亦したがるが世の常なれば、出來得る人の差控へて爲さゞるは、世の爲め幾何の利益なるか計るべからず。出來得る人の爲ることを出來得ぬ人の似ぬる爲めには家内に不和を起し、身に不幸を招ぎ、身家共に亡び國家に不利を來すこと決して少なからず。

我々が今日有する財產は決して偶然に出來せしものにあらず。我國今日の富は我が歷代の祖先がつゝまやかに節儉せし結果にして、此結果が集りて今日鐵道船舶港灣學校家屋等種々有用の物件となりしものにて之を總稱して文化の資本と云ふ。是れ文明を整備する資本なり。萬一此資本を無益に蕩盡する時は元の木阿彌となること一家の破產に異らず。假令各自が心の儘に使ひ得る金錢なればとて其本を考ふれば決して無益の事に使ふべからず國家の爲め私慾を制して貯藏の心掛けあるべし。此貯蓄せし金錢は各家に取りては微細の高なれど、集りては一國の生產資本となりて產物を增殖し以て國債の償却をも助くべし。而して家每に多少の餘裕あるに至れば親子夫婦の間も生活の困難より不和を生ずることなかるべし。世の紛爭は多く不如意より生ずるものなり若し我が會員多少自ら戒むる所ありて人の模範となり、之を小にしては各家を和樂せしめ之を大にしては文化資本の散逸を止め、以て國家に貢献するあらば、眞に愛國の名に反かざるにあらずや。(完)

## 新懸賞

つれづれの雨、物憂さの雨、肩の張る眞面目なことは何人も可厭のことゝ思ひます。そこて、左の新懸賞題を提出すことに致しました。

一、こはてたあ

二、らかにつま

以上假名五文字づゝのが二題あります。この假名の順序を種々に變更して、面白い文句を作つて御覧下さい。尤も二題を一緒にし、又た濁音を振つても宜しいのです。賞品は新刊の『女德論叢』。用紙は端書――締切は七月三十一日。宛名は必ず『東京麴町九段坂下牛ヶ淵公園愛國婦人發行所』と認めて下さい。

東の第七回總會につらなりければ

群馬支部評議員　河西龜子

おほけなくいさをありとのしるしをばはしめてむねにかけてけるかな

總會にまかりてやんごとなき御方々を拜しまつりければ

君のためいそしむ人の惠みにてくもゐのはなを仰ぐかしこさ

公爵夫人岩倉久子の御方の會より賜りしあふぎの御歌を拜し奉りて

あつまれるこれのまとゐは末廣の仰ぎ見るだにかしこかりけれ

## 夏の注意

X Y 生

△夏季は種々の原因から兎角健康を害し易い。であるから種々注意が必要である、就中彼の脚氣と云ふ有難からぬ病氣に罹る人が多い故に、耳學問て得た事實を少し述べて置かう。

△脚氣と云へば近者獨逸からコッホ博士が見えて、何ても此の脚氣と云ふものに就いて研究さるゝとかてある。

△英語を御存知の方は御案內であらうが字典を見ると Beri beri と云ふ文字が脚色と譯されて在ので、ベリベリ即ち脚氣と斯う早合點する徒が多いやうだ。處がコッホ博士の說を待たずとも、專門の人は此の兩者互に相異れることを既に承知して居る。

△それならは何故ベリベリを脚氣と譯して在るかと云ふに、その病氣の狀態が互に幾分か似て居る點があるからと思ふ。

△てあるがコッホ博士の說に依るとベリベリは傳染性の病氣てあるが、脚氣には傳染性のものと、傳染せざるものとあるやうてあり、死亡率に依るとベリベリは百名中六十七名、脚氣は七名位だと云ふことてある。

△して見るとベリベリは餘程猛烈なものと見えるが、我國には脚氣患者はあるがベリベリの患者の無いのは未だしもの幸福と云ふべきてある。

△この脚氣に就いては專門の人すら未だ充分に研究し得ぬことゝて、無論特効藥は未だ無い。が、原因は米にあるから、暫く米飯を廢して、麥飯若くは麵包に代へ、且つ高燥なる土地に轉ずれば其の効著しいと云ふのが、誰れも唱へ、誰れも信じて居る處である。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 手輕な避暑法

某教育家談

此頃は大分、高尙ハイカラ流の講釋が學校なり、社會なりに流行して、平々凡凡の吽には、殆ど耳を貸さないと云ふ風であるが、併この平々凡々空々の中に、どうしてなか〲旨味のあるもので、一ツ十錢もする練切りの蒸菓子よりも五厘の餅菓子の方が旨いこともあるから、一つ馬鹿にされると思つて、召し上つても惡い事はあるまいと思ふ。

### 潔淸は避暑法の第一

扨て追々暑に向つて來ましたので、そろ〲海水浴だの、やれ溫泉だの、それ旅行だのと、飛び出しが流行る時節となりましたが、さて之等が好くないと云ふことは云はない。誰れしも、夏は涼しく、冬は暖く過し度いのが、人情で——冬に單物を着たり、土用の最中綿入を着て、火鉢の側に居る人もありませぬ。出來るだけ、夏は涼しく、と云ふことを好きます。て、この夏は涼しくといふことを、何うしたらば一番手輕て涼しく、又誰れにも出來るであらうか。それは暑くなつたら直ぐ、箱根へ行くとか、伊香保へ行くとかしたならば、誠に暑さ知らずて、涼しく過すことが出來ませうが——併これは、一般に誰れにても出來るものぢやないので、誰れか涼しい思をすれば、必然誰れかゞ御留守番をして暑い不平な思をしなければならぬ。又家事の都合て、とても思ふやうに避暑なぞは出來ないのが多數てす。このやうな不自由な、不公平な避暑法は餘り贊成が出來ないので、私の云ふ、夏は涼しくと云ふことは、輕井澤箱根なぞへ出かけるといふのおやなく、居ながらにして出來るたけ、術々しく蘊張として居ることてありまして、即ち淸潔と云ふことが最も手輕な避暑法だらうと思ひます。

### 緣側が白地

お座敷でも、緣側でも、臺所でも、押入ても、庭でも、何れのところでも、能く淸潔に掃除が出來て片附て居り——亦單衣、浴衣などでも、立派ならずとも、よく洗濯をして垢の附いて居らぬ、折目の正しいものを着て居ると、見た計りでもすが〲しく涼しく見ゆるものであります。之に反對て、衣物は汚れて、白地も赤地になつた折目なしを着、御座敷は放任主義て散亂放題、緣側は反對に白地になつて足跡の形なんか付いて居る、庭は塵だらけ草が植木と間違ひさうになつて居ましたら、一見して何となく、暑苦しいもので、又其中に住んで居る人も必然暑いのです。

### 冬の避暑法

から云ふ家に限つて、冬は遺憾なく避暑法が勵行される。障子は破れ放題て、寒い風が吹き込んで來れば、ハンケチなり風呂敷を挾んで置く流義である——何うか斯う云ふ流義は全然廢して、夏には矢張り夏らしく手輕な避暑法、淸潔法を行ふて欲しいものです。

### 淸潔は大切な問題

家の內外共、何時他人に見られても差支なきやうにして置くことが肝要て——夫れお客様だ——と云つて障子をしめる戸をしめる。着物から何から皆まるめて戸棚の中へ放り込む。餘り大急ぎて力一杯にピッシャリとしめるので、押入の戸が二三寸位後退りして開いて居る。其處から汚れた着物なんかゞ顏を出して居る斯う云ふことは好くあることて、殊に暑中の晝なんか客に行くと、枕なんぞが取り殘されて、隅の方にゴロついて居ることも好くあるやうです。斯様なことはよく注意をしなければなりませぬ。——元來淸潔と云ふことは、最も大切な問題てありまして、國家として戰爭は強く、學術は進步して居つても、其國民が淸潔てなかつたならば、其國家の文明は皮想の文明であります。

### 秩序は文明の母

この淸潔といふものは秩序を尊ぶものてなければ出來ぬもので——即ち秩序は文明の母と申します。西洋では心易い客なぞが來まして押入を拜見したいなぞと云ふことがあります。其時、其家の細君が能く秩序を重んずる人てありましたならば、何時人から見られましても一向差支がないのでありますが、先程申したやうな家てありましたら、それこそ大變て顏を赤くして押入の前に立往生をしなければならぬ仕末になる。——本邦では滅多に押入拜見に來るやうな客もありませぬが——併人に見せる爲めの押入てはなくとも、淸潔に總てを整頓さして置くと云ふとは、其家の細君の技倆であります。

### 不平なき避暑法

臺所の流には澤庵の切れ端や飯粒が散亂つて居るともなく、物置に行けば炭や薪の積方まで好く整ふて居つたならば、實に心持の好い淸々した氣になります。事實は誠に酷ひ暑さでも、其邊が蘊張して居ると、何となく涼しく好い氣持のするものてありますから、皆様も此手輕な避暑法を實行なさらうと思つたら、出來るだけ身を輕く動かして、淸潔法を行ふのて、それは必然心も身も涼しくそして誰一人の不平もなく、誠に氣樂な無事大平な、避暑が出來るのであります——。

### ◁今年の暦▷

七月（大）
July.

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日 | S | .. | 5 | 12 | 19 | 26 | .. |
| 月 | M | .. | 6 | 13 | 20 | 27 | .. |
| 火 | T | .. | 7 | 14 | 21 | 28 | .. |
| 水 | W | 1 | 8 | 15 | 22 | 29 | .. |
| 木 | T | 2 | 9 | 16 | 23 | 30 | .. |
| 金 | F | 3 | 10 | 17 | 24 | 31 | .. |
| 土 | S | 4 | 11 | 18 | 25 | .. | .. |

## 世界の婦人

## 婦人の眼て見た支那婦人

或る婦人が支那漫遊中眼に止めた珍談を少しばかり御紹介いたしませう。

### 五萬圓の夏服

御承知の通り、支那の名所舊蹟は到る所この様に荒れはてゝ居ります。この荒れ果てた有様を見ますなら誰れにても支那が如何に貧乏であるかゞ思ひ遣られます。然れども個人の財產から申しますなら、日本政府の歲入よりも澤山の收入ある財産家も數人ありますさうて、富者一日一人の食費五十圓が通例、上海邊の貧乏人になりますと、一日八厘ても食べて行かれるとは貧富の懸隔も大した者てす婦人の夏服一襲五萬圓と申ますのを見せて貰ひましたが、蟬の羽の様なうすものを五枚まで重ねたもので、總て厚さが日本の透綾位それに、一枚毎に色も違ひ模様も違ひますから、重ねて見ますと、その美しさ何とも云へぬ位です。その様な艶のある織物は私初めて見ました、支那人は自分の贅澤には有るに任せて金錢を惜しみませぬが、公共の爲には一錢でも惜いのです。

### 支那婦人の居室

支那では、婦人の部室即ち內房に案內されます時は、假令何んな身分の方でも、男子は禁制てすから、領事に來て頂く譯にも行かず、そこて領事婦人と私共一行都合三人だけ連れられて參りましたのです。薄暗い室をいくつとなく通りまして、夫人の居室に入つて見ますと、驚いたのは四方に一つの窓も障子もない事です。

唯天井に三つの徑一尺位の明穴が開いて居ります丈ですから、室內の裝飾には珠玉を鏤ばめてありますけれども、實に陰氣に見受けましたので。

それに主客互ひに言語が通じませんので、全くの唖の寄合、房の下つた長煙管てチエンチー〲と水煙草を勸められまして、漸う素振に有難うと云ふ風を見せましたばかり、手持無沙汰とも何とも云ひやうがありませんでした。

然れども、主夫人は愛想が好い方でして、直ぐに私共を次の部室に案內されたのです。その部屋は長男の嫁さんのお部屋ださうて、此處には天井には明穴など一つもありません。明と云つたら唯だ主夫人の居間のしきりから漏れて來るばかり、能くまあ安居として居られる事と思ひました。次室は又次男の嫁さんか又は三男の嫁さんのお部屋なので此處などは殆んど手さぐりて漸う〲何處に何があると合點の行く位ゐでした。那様暗室に住みながら丈高く肉付宜いとは實に不思議です。

支那香港の全景



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小說

# 露の榮

村山貞子

(三)

大學も無事に卒つてから何か關物があるといふので永く彼地に居た兄は、丁度九年目に歸朝した、健三は十四環は十一の歳であつた。

二人は珍らしく父に手を曳かれて停車場に行くとも郡長も町内の者も揃つて待つて居る。各自が兄の出發の時の事などを話して居る内に遠くから汽車が見えた。何だか胸がどき〳〵したが、汽車は遠慮なく近いて其處に止つた。

環は寫眞で覺えて居る兄の顔が今出るかと思つて見て居ると三等室から出て來たのが確にそれであつた、環は眞先にかけよると、兄は急で抱き上てくれた。他の人は上等か中等かに居ると思つて居たのださうて、後で皆が其心懸を賞めて居た。兄は環を下して握手して父や其他の人に挨拶した。環は初めて握手をされたので何だか判らなかつたが家に歸つてから中の兄に聞いて見た。

「西洋の兄さんは環の手を捉へてゆすぶつたよ。」

「それは此方でいふとおぢぎだ」と教えてくれた。

伯父さんも來た。夫から皆揃つて歸つて來ると、母はぼんやり門口に立つて居たが兄が「御母さん」といふと周章て、家に馳け込んで了つた。環はをかしな御母さんだと思つたが皆は尤だといつた。

其晩は町内の人達も來て賑だつた。

兄は歸朝早々某貴族の學校の教師に聘せられたので、十日ばかり居て出京した、健三と環とは共に上京した。

母は中の兄と父とを殘して涼風の立つた頃出て來た。國の家は中の兄が家内を持つて立てゝ居るので、氣六かしい父は知らぬ土地よりはといふので止まつた。

二人は兄の手に寄つて成長した、健三が大學に入り、環が女學校を卒業する時、嫂が出來た。いゝ人である、二人は此人から愛されて平和に育ひ立つた。

健三は今法學士になつて外交界の少壯な腕利と稱はれて居る、彼は物質の上からも常に母や兄を喜ばして居る。

環はかう思ひ來ると自分の身が情なく思はれて、つひ夫を恨み出しもするのである。

世の中に長上の尊くない者はないが、自分の親や兄は自分の爲めには其以上の人達である、其兄の家に出産があつた。前から用意して置いたものを一時他に廻したのが、其後都合が惡く直ぐにも行きたかつたものを、氣を揉み〳〵今日になつた、今日はもう宮詣である母も兄も此頃の事情を知つて居るから何とも思ふまい。が、それが難いので、思はないだけて濟ます母ではない、今まで來ないのは能く〳〵困つて居るのだらうと思はれるに極つて居る。夫が一番難いのである。自分が薄情だと思はれるだけならば甘んじて居るけれども、あの懷かしい夫や、柔しい姑を腑甲斐ないやうに思はせるのが殊に苦しいので、切めて着物の一枚も取つて置いたらば何とかなつた物を、今は何にも彼にも一つしかないあれを遣つたら物は間に合つても身體の方が間に合ないし、奈何したら宜いのか、彼や是や思ふと僅ばかりの事に此樣に苦勞するのかと思ふと、一層死んで了ひ度くなつた。

環は心配の最後になると、いつも死といふ事を思ふ、然し其處迄行くと、

「何の死んで奈何なるものか、他に出來ない苦勞を仕遂げればこそ豪いので、自ら死ねなんぞとは意氣地無の骨頂て、生れて來ない方が増な位、死に時の三日や四日は氣でも延ばせるものだ、そんな根性な奴は見るのも嫌だ。と母が人も聞まし自分とも警めたらしい言葉を思ひ起して、胸は晴々と、あの母の子で何て還麼に愚痴だらうと、自分で可笑しく感じられた。

「もう思ふまい〳〵出來ない時には仕方がない、何と思はれやうが儘だ、自分には優しい姑や夫が在る、別けて三人の子の母て居ながら、詰らない事に胸を痛めたもの、夫よりは御茶でも煎れて姑を喜ばせやうと思ひながら茶棚の急須に手をかけた。

「たまさん子供達は?、おや奴さん睡んねかえ。大きい方のは。」

「今出かけました、多分お隣へでも行つたんでしやう。」

「然うかい、昨日こんなものを貰つて來たが奈何だね。お前が好だからと思つたけれど、子供が居るから見つからないやうにしまつて置いたんだよ、又御腹でもこわされては困るからね。今の内子供達にお茶でも煎れて貰はうかね。」

とマカロニを集せた紙包の菓子を出し

「まあ有がたう御座います、本當に子供は不可といへばなほ欲しがりますからね。」

環は姑に茶を進めて、其心入を一つ摘んだ時に、格子戸を荒けなく啓ける音がした。夫武彦の歸宅したのである。

「おやお歸宅」といそ〳〵玄關に出て見ると、靴の紐を釋いて居る。屋敷が在つた頃には敷台に腰を下せば車夫が脫つて上げたものを、平氣な顔をして斯樣して居られるのを見ると、自分許り難いやうに思つたのが勿體なく思はれた。

困ると云た處が不時の事に困るので、年末の不足も有るにはあるが、翻譯物でも賣れた時には都合がつくので其迄は出入の者もそんなに厭な顔もしてくれないので、奈何にか廻して行けもする。夫といふのも前々からの贅澤がつきまとつて居るので、夫さへ挽めれば常には差して困らない、此頃はそれも大分慣れて來たので、もう一息の辛抱である。環は考へながら脫ぎ捨てられた靴を撤つて、夫の後に從つた。

武彦は着更もせずに茶の間に來て。

「只今」といつて包を出しながら、笑ましげに、

「おい之を上げな、おばあ樣のお好なものが入つて居る、夫からお前の病の治るものも入つて居る」と押やり、又紙幣を一束出して「此方に未だ十圓許りあるが、是は僕のお小遣其代明後日は母樣を竹葉へ御案内だ」と母の方を向いて、

「是から此奴を岡田へやらうと思ひますが奈何でしやう。」

「然う出來れば結構だね、今日は御宮詣だといふのに都合はつかないのか、此人の事だから無悲しいことだらうと思つて居たのに夫はまあ何よりよかつた、夫おやあ、たまさん早く仕度をおし、まあどんな柄だか見せておくれな。」

環は嬉しさに目を潤ませながら包を解くとポン〳〵の袋と水引のかゝつた反物が出た。姑はとつて、

「おいゝ柄だよ。」と側に置いて

「民子もつれて御出か、それてはちよいとよんで來やう。奴さんは出る迄そつとして置き。」と姑は出て行つた。

早稲田から甲武の牛込の停車場迄姑の氣をつけてくれた車て來て、電車を代々木て降りた。

**次號の當代百畫選**

としては鏑木清方氏作の「海水浴」と云ふ畫題のを掲げます。

夏が來ました汗母が生たり日に燒けたり皮膚に故障の起り易い氣節となりました併し社會の進步は如此故障を心配するに及ばぬ樣になりました其は乳白化粧水「レート」の發明です之を使へば夏でも夏の故障が起らず益美しい皮膚となる事驚く程で醫藥の博士も賞讃される通り皮膚を內部から美しくする上に床しい香氣は香水の用も致すからです



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 指太郎（中）

青郊

其うちに日はすつかり暮れて、細い月が凄さうに木の間を泄れて居る。風はひゆう〳〵吹て狼の遠音のやうに聞へる。子供達は恐くて〳〵もう泣くにも聲が立たなくなりました。指太郎は獨り側の木の高い枝に昇つて彼處此處眺めて居ましたが、遠くにチッラと火が見へるのに、元氣づき

「兄さん、火が見へる、あれは家に相違ない、あれへ行きましよう」

兄達ももう家に居た頃のやうに指太郎を馬鹿にしません、皆音なしく指太郎の云ふ通りに後から付いて火の方へ駈け出しました。少い脚でも一生懸命に駈けたものだから、やう〳〵藁ぶきの家へ着きました。戸をトン〳〵と叩くと、内から優しさうな婆さんが出て

「お前達は子供計りぢやないか。こんな夜に、何處から來たのかへ」

「お婆さん、僕達はね、あの道が分らなくなつたのです。此家の火が見へたので駈けつけて來たのですから一晩止めて下さい」

と指太郎始め皆々手を合さん許りに頼みました。婆さんは小供達の顔を見廻はして暫く默つて居ましたが、ほろ〳〵と涙を流して

「オ、可愛そうに、皆泊めてやりたいは山々だが、お前達は此處を何處と思つて居るのか。わしは人間だけれど、内の爺さんと云ふのは鬼なのよ。お前達の様な小供等は直に食はれて仕舞ふから可愛そうだが泊められぬ」

聞いてびつくりしましたが、さて考へて見ると、元の森へ歸れば狼に食べられるし、此處に居れば鬼に食はれる。何の道、食はれるとなら、家の内で食はれる方がましだ。それにあの婆さんは親切のやうだから、何とか助けて呉れる方があるかも知れんと思つて、指太郎は兄達の考を聞くと皆同じなので

指「お婆さん、僕達は森へ行つても死なねばならぬのだから鬼に食はれても宜しい、どうぞ泊めて下さい」

婆さんも一晩のとだから何とかして鬼に見付からぬやうに出來るかも知れぬと思つてとう〳〵泊める事になりました。其處で皆家へ入つて圍爐裏の火にあたりました。指太郎は家中を見廻はすと成程鬼の住居と見えて獸の皮だの、骨だの、生々しい肉だのが並んで居る。又自分等の側には鬼の夕飯と見えて小羊が一匹なりで燒いてあります。鬼は今留守と見えて音もしません。

暫くすると表の戸をどん〳〵〳〵破れる程叩きます。婆さんは「其れ鬼が歸つて來た、早く隱れな」と云ひ大變あわてて小供等を布團の下へ隱して「だまつて御出よね、動いちやいけぬと少さな聲で云ひながら戸をあけに行きました。

其内に、どしん〳〵と足音をさせて鬼は這入つて來た樣子です。

「こら酒の用意は出來たか、肴はあるか」と、やかましく云ひながら膳についたやうです。少し立つと鬼は何と思つたか頻に彼方是方と鼻をぴこ〳〵させて嗅いで居ましたが。

「こら婆何だかおいしそうな匂がする、人間の子が家にゐるネ」と云ふて又嗅ひで居ます。

「小牛の屠したから其臭だろうよ」

「そうじやない小供がゐるに違いない。いゝ匂だいゝ匂だ」と鼻ぴこ〳〵させながら室中を見廻してゐましたが、ツと起つて寐床へ來ます。指太郎は體が少さい者ですからそつと襖の間から鬼の樣子を見て居ると、鬼は子供等の方へ來るので、皆一所に小さくなつて居ます。軈て鬼は枕許へ來て、布團を剝ぎました。

「婆あ！　之れ見よ小供がゐるよ、お前は己を欺すのだな、又こんな事をすると御前も食つて終うぞ」と怒り付け、小供を見ては

鬼「兎に角、いい餓鬼が手に入つた。丁度明日は客があるから、よい肴になるわ。あゝ旨かろう」と一人言云ひながら、鬼は小供を夜具から一人づゝ引づり出しました。小供等はぶる〳〵戰慄へながら手をついて、「どうぞ、命だけはお助け下さい、何んな用事でも致ますから」と大變に頼みましたが、少しも聞いて呉れません。一向可愛想がつて呉れる所でなく、こんな柔かい肉は又とない、醬油を澤山つけて料理したら、旨からうと云ふて居る位でした。其から大きな庖丁を出して十分に研ぎすまし、一人の小兒を捕へて今にも殺さうと、しかけましたら婆さんが來て

「何も今晩に限らんぢやないか、明朝におしと」申すと鬼は大變に怒つて

「だまれ、糞婆々、今晩殺して置くと肉が柔になるのを知らぬのか」

「だつて、まだ肉は澤山あるのだもの、未だ小牛が一匹と羊が三四、夫に赤ん坊も半分あるから、そんなに急いで殺さなくても、いいぢやないか、二三日其儘にして旨い物でも食べさして置くと一層旨くなるわね、今晩は殺さぬ方がいい」と申しました。鬼も成程と思ひましたか「そう云へば、そうだ、ぢやあ餓鬼等に飯をくわして、何でも脂肪の落ちぬやうにして置け」

鬼はとう〳〵彼方へ行きました。

當代百畫選（十一）

△人形　山内神斧筆

スミレ香水
東京平尾
滑分店
町

尙例年の如く手ぬぐい中形も本年は特に新形を撰み格安にさし上可申候

めりんす友染の形がよくて大安賣するおなじみの日本橋區人形町通り赤のれんおはなやにて木綿中形おゆかた地を製造元と特約いたし實に目のさめる樣な頗る粹な向き新柄及格安物ばかり取揃へ申候間御進物其外御用御覽旁々御光來の程奉希候
電話は浪花四三四五番



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

美顏料パール　東京濱町 平尾分店

―夏季雜題―
佐々木信綱選評

天　紀伊 中橋多満子
都より來ましゝ友のもてなしに今宵は名のれ山ほとゝぎす
評。若葉涼しき森のもとに語りあふらむさまも見ゆるやうにて

地　岩代 長谷川吉野
若葉風涼しうわたる欄干に郭公きく朝心地かな
評。此朝心地たとへむに物なかるべし

人　東京 清水 まつ
種まきし鉢の朝かほのひにけりいかなるいろに咲きかいつらむ
評。咲いてむ日のゆひなり待たるゝなるべし

秀逸

夕月のかげもらぬまでなりにけりまどにわか竹しげりしげりて　京都 津田君子
螢火をほそめて月のかけまではおはしま近く水鷄なくなり、　山口 末田貞節子
波風は沖よりふきて夏もなほゆふべすゞしき海つらのやど　堺市 金田久子
うちそよぐ稻葉の末に露みえて月影凉し小山田の風　青森 大槻のぶ子
濡玉のかをるあたりの凉しさに月なき夜半もはしゐしてけり　東京 飯塚きよ子
れやのとをさゝてぬる夜もおほかりきあまりすゞしき月の光りに　仝上 仝人
霽はれて心すゞしき朝風につゆぶきみたす小田の若苗　豐橋 平松いと子
しめ／＼とさみだれふりてふくる夜をねやの板戸にくひななくなり　東京 林 きく子
うゑし日もまた若苗の小田のおもにうつるも凉し夏の月影　長門 萬田眞子
ちりのこる庭の木蔭の櫻花雪におくれてひとりにほへり　豐橋 市川みどり
中垣のへだてもなくてとなり人さし向ひても凉む夜半かな　岡山 西村長子
夕凉み橋にたゝずむたをやめの袂かろげに河風ぞふく　鹿兒島 松村都賀子
雨雲のそらになけどもほとゝぎすくもらぬこゑのおもしろきかな　山口 末田竹子
ほとゝぎす啼く音こひしみわが夫と語らふ窓やかた

甲

散　鹿兒島 藤野鋭子
青葉若葉みどりうるはしき夏山のふもとぬひゆく谷川の水　堺市 金田つるえ
しげりあふ庭の小池のあやめ草咲き亂りけりさみだれのころ　三重 莊司種子
梅雨のはれまに子等のこゑすなり落たる梅の實や拾ふらん　長野 楢原千代子
きのふ見し花の木末のいろかへて若葉にむすぶ朝露すずし　三重 日野千鶴子
病みふして不如歸きく雨の夜は袖になみたす心地こそすれ　下野 那須の花
むらさめのそゝぎしのちの若かへておつる雫もみどりなるらん　伊勢 日野千鶴子
涙よするいそ松が枝に雨はれてこずゑのせみのこゑぞ涼しき　東京 永井なみい
いれかてに亡き雛子しのぶ此夕なほ思へとや木鳥のなく　岡山 清水梅子
むつひてし友に別れて此夏はいとゞいぶせき梅雨の雲　岐阜 小島駒子

東郷大將邸御常用
日本一の オペラ香水
發賣元 東京日本橋區米澤町 鳳舞園

かたわれの月の光りもそへにけりなくれさやけき山ほとゝぎす　群馬 水野千代子
青葉して露つむ少女見えずなりぬ木の間に歌の聲はすれども　能登 松本千代子
淋なみにこゑもまぎらてほとゝぎすいそ山かげになのりけるかな　横濱 鈴木まつ子
なやみなくふるさみだれのつれ／＼にひく琴さへもしめりがちなる　岡山 山崎靈子
旅衣筑紫のはてに病む妹がまくらへ淋し五月雨の夜中　筑前 松の操
亡友のみ墓に一枝手向なん君が愛でにし撫子の花　大分 清閑女
夏めきて螢とびかふ夕月夜妹こひしきふるさとの空　岡山 入水清子
ほとゝぎす絶えずしなけば小夢かる身のいたつきも忘られにけり　岡山 横川明子
さみだれもあとなく晴れて日影さすのきばにならぶ蛇の目ばん傘　愛知 湯淺豐子
しげりあふ木々の梢に鳴くせみのこゑも涼しき夕まぐれかな　青森 正子
朝風にひらく小笹の新葉よりこぼれておつる露のしら玉　福島 霜田よしの

乙

さゞ波を清くてらして久方の月なき夜をとぶ螢かな　山形 阿部さゐ子
朝の川霧こつらに立こめて瀬の中ゆく舟は行き突ふ　東京 瀧澤てい子
晴れ渡るみそらに月の影もなくまばゆきまでに星のかがやく　廣島 金原なを子
あちこちと螢おいゆくうなゐ子の足元近く鮎つたふなり　岡山 阪田元子
夏されば絲句へる奥山の木々の梢にほとゝぎす啼く　攝津 田中正子
湖の北に二三の螢みえて笛の音も聞く夏の夜の月　青森 久保石子
風物は昨日も今日も五月雨のはるゝと見えてはれぬ空かな　函館 安藤きみ
墨黒く流れもにごる梅雨の間やながめの窓に撫子の咲く　東京 伊矢野幸子
よひやみにまよふたび蹊をなぐさめてあかしにせよと螢とぶらむ　三重 中島千萬子
時鳥なになけくらん夜な／＼病みます母は熟眠せず　青森 留目文子
しと／＼と小雨ふりてゝ里川にもゆるほたるのわびしかりけり　横濱 鈴木まつ子
松が枝のしげみの中をもれ出づる月影凉し夏の夕ぐれ　神奈川 足立原とく子

## 國學院大學夏期講習會

國學院大學にては今般校舍本館の新築落成を機として、八月一日より同廿日まで毎日午前中、講習會を開く由にて申込は七月廿五日限、婦人席の設備もありと、

○講習科目

國文學の特質及其變遷の大綱（十二時間）　文學博士 芳賀 矢一
國文研究に必要なる歷史事項（廿四時間）　文學博士 荻野 由之
作詩法附支那戯曲小説の大要（十二時間）　森 槐南
漢字漢文に關する史的觀察の一斑（廿四時間）　岡田 正之

○科外講話

日本語源論沿革　文學博士 上田 万年
文學史料としての古文書　文學博士 三上 參次
支那文學談　文學博士 市村 瓚次郎

以上の如く斯界碩學の相並びて講座を受持たるゝは實に未曾有の事なれば篤志の才媛は此機會を利用して、國文學の精粹を研めらるゝも可なるべし。
（聽講料金貳圓五拾錢　振替口座七七〇一番）

歐米美人の肌は艶々として美つくしきこと羽二重の如し何故に歐米の婦人は斯く美つくしきや？
常にスミス洗粉を使用するが故なり
若し未だ美人國の稱ある日本婦人中にスミス洗粉を使用せざる人ありとせば
夫は美人國の耻辱なり
何故に美人國の耻辱なる乎
常にスミス洗粉を使用せざれば到底歐米美人の如き眞の美をなす能はざればなり
定價大瓶金卅錢　小瓶金十八錢　袋入金十二錢　郵送料金十二錢　郵劵注文一割増
製造元　英國倫敦　大英國帝室御用化粧品商　スミス化粧品會社
發賣元　東京銀座　ローヤル化粧料發賣元　佐々木商店
電新四七二番　振貯三二二〇番



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 俳句

—(夏季雜題)—

内藤鳴雪選評

天　夏の月花なき山を照らしけり　下野 黒須喜久子

評。乾坤悵然

地　鶯の聲に小雨の降る日かな　岡山 坂田元子

評。紗窓人靜し

人　十六の羅漢默して時鳥　下野 黒須輝子

評。靄燈影孤なり

## 佳作

葎の上をかすめて宵の螢かな　京都 中川たか子
山深く殘花と臥してほとゝぎす　仝 人
城趾や青葉かくれに天守閣　東京 足立菊子
青東風や鏡の前の須磨の浦　東京 彦坂たき子
夕顔や垣の外より黄昏かるゝ　長門 鶴田莨子
浩々と千代田の空や夏の月　東京 松山重子
這ひ渡る須磨や明石や時鳥　下野 那須の花
むしろ敷て涼み心地や夏の椽　三重 荘司種子
沖見えて帆舟行くらし松の月　東京 伊矢野孝子
五月雨や椽の下なる蟹の穴　山口 末田竹子
五月雨や草三尺の軒の下　仝 人
日斜めに青田の笠の一つ哉　東京 栗山てい子
五月雨や繰り返したる文長し　佐賀 小林龜子
椽先に君か腰椅子や夏の月　大阪 樋口榮子
夕立や畦道いそぐ草刈女　東京 脇 孜子
朝顔や消え殘りたる石燈籠　東京 秋元小菊
涼しさの餘りて寒し海の音　東京 中山正子
元服に涼しうなりし男哉　仝 人
木の間もる月かあらぬか郭公　能登 松本千代子
若葉せし下に佇る丶地藏哉　青森 松尾とし子
山僧のはげし頭に落花哉　青森 竹林秋子
山門に犬の吠ゆるや青嵐　仝 人
夏川や網打つ人のこゝかしこ　岡山 清水うめ子
椽側に並ぶ女や夏の月　青森 久保石子
うなゐらに打ち濡されの螢哉　德島 藤野錠子
つゝじ散て金魚も見えず庭の池　三重 西山數子
夕顔や青空高う鵜とぶ　備後 世應龜子
秋近き銀の屏風や朝の月　仝 人
夏瘦も願ひのうちの一つ哉　東京 永井なみい
市馬の屎のくさき暑さかな　東京 永井なみい
椽側や蚊遣くすべて君と我　仝 人
大江に笛も聞えず夏の月　三重 西山ひさゑ
瘦て見れば蚊帳に月なす此所　下野 黒須菊子
戸を鎖して入れは水鷄の叩き見　紀伊 中橋多麻子
はし近く君を迎へて夏の月　下野 黒須菊子
若楓そよ／＼夏の机かな　京都 秀 子
家やある青葉の中に大幟　岡山 西村てふ子
朝もやの中に鳴きけり時鳥　山形 阿部さゐ子
雷霽れて現心や雨後の月　東京 鈴木榮子
青すだれ寵姫の君の亂れ髪　岩代 長谷川吉野
端居して居れは開きぬ月見草　東京 長望錠子
庭草はうるさきものに五月雨　仝 人
君去りして庭の櫻も散りはてぬ　廣島 金原なを子
物思ふや青葉の月の涼しきに　仝 人
我背子の病は癒えて時鳥　仝 人

毛髮用 パール 東京濱町 平尾分店

# 青き花

編輯局同人選評

## 二等

したしき人　讃岐 瀬高やす子

五月雨ふゞき傘ななめ
今來し端書のいぶかしく
幾度となくくりかへし
ひたすら急ぎ來て見れは
二日見ぬまの面やつれ
にぎりし御手のわななける。

評。俗謠のごとし

## 佳作

君戀　廣島 金原なを子

花咲く頃に癒えもせば
何處の花にあくがれん
樂しみし身もうたてやな
看る袂も朽ちはてぬ
櫻はいつか散りはてゝ
青葉の月の涼しきに
啼くほととぎす聲かすか
ああわが背子はいつ癒えむ。

評。熱情の全篇に溢めるを見る

朧夜の友　東京 佐野くに子

おぼろにかすむ月かけに
軒端の柳なよ／＼と
鐘のひゞきに夢さめて
やみさらぼひし友の面
さめてねむりて懷舊の
なさけもいまは世の影に
啼く音ものうきほとゝぎす。

評。かけ詞はなるべく用ひない方がよう御座います

胸のもだえ　下野 那須の花

紫にほふ遠山の
影靜かなる夕まぐれ
遠き望みにあくがれて
そゞろに悲しわが心
暮れゆくまゝに星影や
月を仰ぎてたゞ獨り
行くすゑをおもひ涙なかれぬ

評。推敲を要す

夏の月　横濱 鈴木まつ子

隅田川堤の木々も青葉して　花に殘りし心さへ
今は忘れて涼しやと　眺めし居れはさやかにも
月こそ照せ地の上は　螢の如くに躍よひぬ。

評。想の蕪きを惜む。

旭日　能登 滿層女

東天紅に輝きて五彩の雲の破目より
幾千萬の金の征矢ハット放ては海原は
金絢銀絢の舞ひ狂ひ渦紫の浪の綾
淺緑なる大御空沖邊に立てる海霧も
唯燦爛と輝きて靜けき天地いと徵に
神の樂譜ぞひゞくなれ。

評。女らしからぬ歌。

## 選外佳作

▽亡き子　清水梅子▽竹林秋子▽西山ひさゑ▽別るる夜　黒須輝子▽花を捧ぐ　八木清子▽夏の夕　黒須菊子外數名。

附記。今回の應募詩稿は一體に振はざること甚しかりき。鉛筆にて書きたるもの、住所氏名の明記せられざるもの等は如何に秀れたる作什と雖も沒書とす。

# 料理の栞

家庭簡易 西洋料理法　私立英語專門櫻井女塾長 櫻井ちか子

BOILED FISH.

All large fish, with the skin whale, should be wrapped in a cloth, wonnd with twine, and covered with about two inches of cold water. In the water put a little flour, a small lump of butter, a shopped onion and parsley. After the fish has boiled sufficiently, take the yolks of two eggs, the juice of one lemon, and about a cup of the water in which the fish has been boild; put al into a stewpan and let boil until it thickens, stirring all the time; then pour over the fish.

**ボイルドフヰシコ**(うて魚)

大きな魚を皮のまゝ布片に包みて鍋の中に入れ魚の上二寸位迄水を入れ其中にメリケン粉少しとバタと細かに刻みたる葱とパッセリを加へ其魚の煮えたる後魚を取り出し別に玉子の黄味二つをよく攪き交せ其中にレモン(柚子にてもよし)一箇の汁と魚のうで汁一合とを加へよく攪き交ぜて鍋に入れ攪き交ぜながら煮立てたる後先の魚にかけるのてす

正誤　前號の始より三行目のサツシュトはマッシュドの誤り

商品案內表無代送呈
商品概要　金銀時計類及附屬品、眼鏡類　寶石入指環、金銀盃　茶器類、洋食器、七寶花瓶　賞金牌徽章装飾品各種
大勝堂　東京銀座通尾張町　電話新橋二二六四番

婦人科產科 榊病院
院長 醫學博士 榊順次郎
副 醫學士 久保徳太郎
副 醫學士 田代謹二
婦人科產科 每日午前診察　外科的婦人科 外國留學中　婦人生殖器病　泌尿器病及內科
●施診火木土自午後一時至二時　科一般火木土午後診察
麴町區三番町三三(電話番町三九五)

小兒科專門
腺病　體質(瘰癧症)
小兒胃腸障害(脾疳)
腹膜炎(脹滿)
小兒皮膚病
ドクトル メヂチーネ 長井岩雄
東京日本橋數寄屋町(呉服橋外)電本百八十

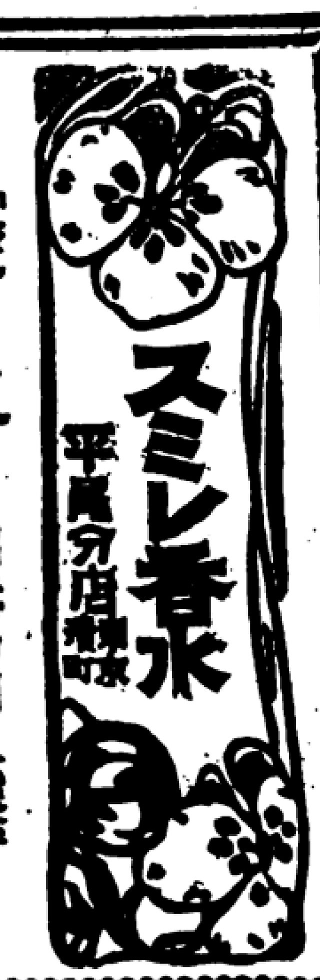
英語西洋料理 夏期講習　私立英語專門 櫻井女塾
自八月一日至同卅日 會話外國婦人教授す
東京本郷向岡彌生町

於勸業博覽會賜賞牌及褒狀 裁縫はさみ各種
(定價表は御報次第送呈す)
(電話浪花八五七番)(振替番號二九四七)東京日本橋てりふり町 あごや

美顏料 CREAM
クリーム石鹸
色黒き人に告　肌を艶白たらしめんと欲せば牛乳浴牛乳浴に勝るは
香氣馥郁として香水匂袋の代用をなす
定價 小形十五錢 大形廿五錢 特 五十錢
輸入元 オーケー商會 東京神田久右衛門町




Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN





## 「短文」　編輯局同人選評

### 一等　讃岐　瀬高やす子

山吹の壊れかゝつて居る健仁寺垣のあたり、小さな足音がして黄い花の中から、眞白な胸かけを見せて出て來た君子は片手に大事なお人形抱て、何か唄ひながらお池の方へ。君ちやんや昨日のやうに金魚をお料理してはいけませんよ。「母さまもういたしません花ちやんにお湯つかはせて上るのですもの。」君ちやんは人形に頬ずりした。

評、金魚のお料理は恐入りますね。

### 二等　三重　中島千萬子

あつまの學びやなる男の子のもとより、おこせし小包の着きぬ。いさと開けば汚れたる冬衣の外に、紙包の母上と記したるがあり。何ならんと見れば罐詰二つ、あな嬉し夫の今日の業を終へて歸り給ひ、是を下物にしてさゝくみ給はゞ、男の子と共とゐしつるこゝちしていかに盃の數や重ね給ふらん、とく歸りませ待ちはべるになむ。

評。よき兒を持ち給へり

### 三等　世はさまく　東京　清岡忍子

雌鶏が巣につきかゝつたので、早く止めさせやうと桶をかぶせると、雄鶏が心配して側につききりて、雌を外に出さうとして其の隙間からチヨイ／＼鳴いてはその羽を抜くと、愛らしい雀が二三羽その抜羽をくはへてゆく、巣を作る爲だらう。すると意地の惡い斑の野良猫が來て、雀を追ひかけると驚いてバツと立つ。あゝ實に世は樣々だ。

評。それを貴女が寫生して投書する、選者が讀んで評をする。それを愛讀者が讀む。

### 三等　夏の山守　岩代　長谷川吉野子

そよ／＼と若葉の中から吹いて來る涼しい風は、椽側に散ばつてる青い詩箋に波を打せて居る。窓の中には香の烟が細く靡いて十二三位の雛僧が、剃りたての青あたまを厚い本の上に乗せて、心地よささうに晝寢をして居る、と何處かで郭公がないた。

評。清涼の氣紙上に溢れたり。

## 佳作

○　靜島　伏島たき子

夕くれの空靄ひく／＼鳴しきる蛙の聲も閑をよびがほなれど、咲きみてる垣の卯の花ゆかしう、しばしたゝずむほどに、いよ／＼そに見すごしがたうて、そが小路にそへる柴の戸をうちたゝき、いかで一枝をとあつかましうも乞ひのぶれば、家主いとにこやかにそはやすき事にこそ。皆もちゆきたまふとも苦しからず。折りてまゐらすべうもやなどいはるゝがお夏に嬉しう、いなとよさらば御好意にまかせ心のまゝにいたゞく／＼べければと、厚くいやして、いそ／＼とのびあがりては一枝など高きは洋傘もてたわめなどしつゝ、あの枝もこの枝も、

評。欲ふかき君にもあるかな。

お世辭　下野　那須の花

思へば妙なもの、お世辭がよくて出入を止められた樂給は未だ聞いた事がありません。

評　これも處世術です。恐く云つては切りがありません。

野道　青森　久保石子

山百合の花を持つた二人の少女が、野道を歩いて居る其あとから黄と赤の蝶が戯れ乍らついて來る。鳴歌の聲は遠く鎭守の森のあたりに消えた、若葉の奥にはほととぎすの鳴く音が、風と共に野面を渡つて一寸靜けさを破る。やがて元の靜寂に歸る。

評。も一息で立派な文章になります。

愛國婦人　長野　植原千代子

モシ／＼姉樣々々ロ――と、はや一丁ばかり往かれた姉樣を呼びとめて、御内へいらつしやるの、ではすみませんが姉樣田圃へ御出になるまでに、郵便配達が來たら是非持つて來て頂戴な、ヱ、私の待ちに待つてるカが今日きつと見えるのよ。姉樣けげんな顔して、「どなた」私も可笑しさ嬉しさにたえやらざりしかど、わざとそしらぬ顔して今日は七日でせう、て朝こなければ夕方はきつといらつしやるわ、御存じの愛國婦人が、アラいやだ。あんまり可笑しかつたので思はず噴笑しました。

評。愛國婦人が參上したら御馳走をして下さい。

夏の朝　山形　阿部さゐ子

昨日迄はきつりと見えた周圍の山々は、もやに包まれて近きは濃墨遠きは薄墨で描いたやう。前を流れて居る川はもやの内より出て、一曲りして岩にせかれつゝ流れて行く、見とれて居ると、どこからとなくほととぎすの聲がうすれて行く、いづれ山の青葉の中であらう。

評。涼しき文

夕の月　青森　竹林秋子

月が南部の古城の杉の間からちよつと顔を出して居る

## 選外佳作

向ふ岸の柳の影には釣魚釣が一人、頭の上を鴉がカツーと鳴いて往つた。西の空はまだ明るい。田植踊りの女であらう、佳い聲で田植歌を唄つて來る。黄金欄の下には二三四の馬を洗つてる馬子の姿、小波に月が碎けて金銀の玉を海山轉ばしたやうなのと對照して一段の光彩を添へて居る。

評。俗悪なバイオリンなど聞えないで結構

あるあさ　富田鳳峰△友の手紙　入木靖子△笛の音　小林鶴子△桑摘　藤野綾子△今日の窓　中山由子△市村たか△自然の公園　佐藤春子△瞑夢　山崎露子△あやめ　平野鹿鳴△旅行記の一節　那須の花△夢寐　靜子△農夫の氣焔　月笑女史△芳子△松本千代子。

つゆ雨あがりぬまづはなだ草初夏の瞳を上げてよろこびをいふ。以下記者が半分程讀んだ間に一寸目についた作を擧げて見る、勿論これが凡て集中の佳作と推奬するのではありません。（かしは木記）

朝うつくし簾かゝぐる友染の袖のひまなるむらさきの島　恒川清々

姫朝咏く人みな死にし世の果の靜なる日の野のここちして　渡邊殿

山畑の蓼生のなかに霧おきぬ遠代の城のいしずゑの石　高橋青山

くだかけはほがらに鳴きて大杉の往還の露ちる朝月夜　柏木露月

わが心これ二つなき鏡なりうれしや君が影ぞうつれるかな　宮内歌仙

ありわびてうき日重ねし我胸のうつぼ木なだに芽せよと東風す　筒井靈坡

鍾に燃ゆる螢なる小草の火ぞかなる野にありし日の夢殘るらむ　井上青波

なにとなく聞けば寂しく目潤みぬ入日の中の街のどよめき　上林文子

筑波山その山に似る朝雲とならびて涼し初夏の國　前川千帆

わが心この世くまなく四季の花一時に咲かむ嬉しさに居ぬ　三笠野牧雨

菜の花の中に家あり三月の筑波よりくる風にふかれて　那須行春

憂き身もあへて死ひずあるゆゑに碎びと呼ばれむもよし　田中鳳聲

別の日ふたたびは見ぬなつかしき御姿に似る花を賜ひぬ　米原豐十郎

君が家をそれて青き海みたるここちに此日門よぎりけり　大村流外

はれやかに雲かきならし仰ぎ見て君の笑む日か嚢笑しき　山崎貼

ゆく秋の稲穂そよげる國こえて泣くも君のとつぎゆくかな　前田太郎

青の空うたがひかはたよろこびか一ひら白き雲うかびたる　上野鶯雄

かきつばたわか葉の衣きたるたをやの人のおもかげに咲く　加藤玄雲

君きたりささやく翠しなつかしきりしき袈えて日ながし　櫻十文字

牡丹さく晴れたる山の晴の日のよき秋な祭の色にして　橋本李太郎

高野山千もとの杉に春の雨ふる夜となりぬ攻のこひしき　福田五吾

## 歌集「白光」を讀む

新聞雑誌の文苑で與謝野晶子女史が選んだ青年男女の短歌を一冊にして、新潮社（麹町區土手三番町廿七番地定價拾八錢）から發行したのが白光です。歌の數は凡そ千首、中には思ひ切つてつまらないものも混つてる代り、佳いものも隨分出て居ます。兎に角現代の青年男女の趣味また思想が、奈邊に向つて動いてるかと云ふことを觀察する爲に、所謂新派の和歌を好む好まぬは別として、若き子女を有する母親の一讀をお奬めしやうと思ふ。序歌として晶子女史の近什が數首掲せてあります。

男がた常盤木うゑぬ春のくれ山吹めて遊ぶかなたに


金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

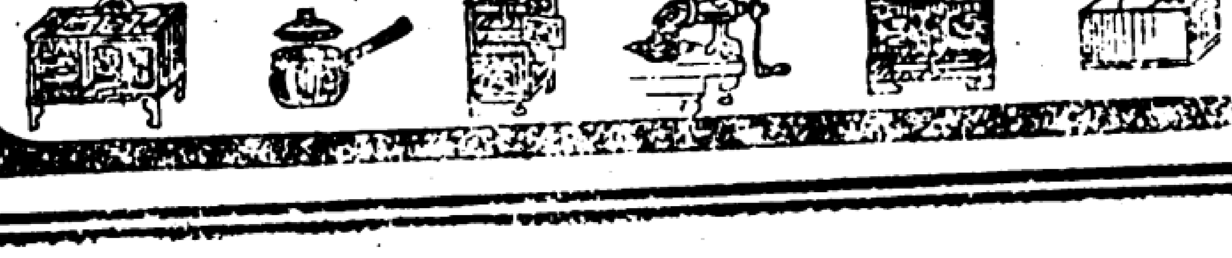
宮内省御用達　玉寶堂　電話下谷（特九六五番 一二四四番）

阿部彦四郎商店
東京淺草茅町淺草橋際　長電話下谷一九二三

特許 富貴竈
スイーデン國製 石油瓦斯コンロ
目録進呈

無煙無臭

夏季最適
火氣が他に散らぬ故汗に苦む憂なし
石油が即時に瓦斯となる故極めて輕便
然かも一時間の消耗僅四勺
一升の水が五分間に沸騰す



腦病
精神病
神經病
東京府下○龜戸町
かめゐど停車場ヨリ約十丁
加命堂腦病院
電話浪花二五五二
院長 奈良林浅次郎




Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 雜報

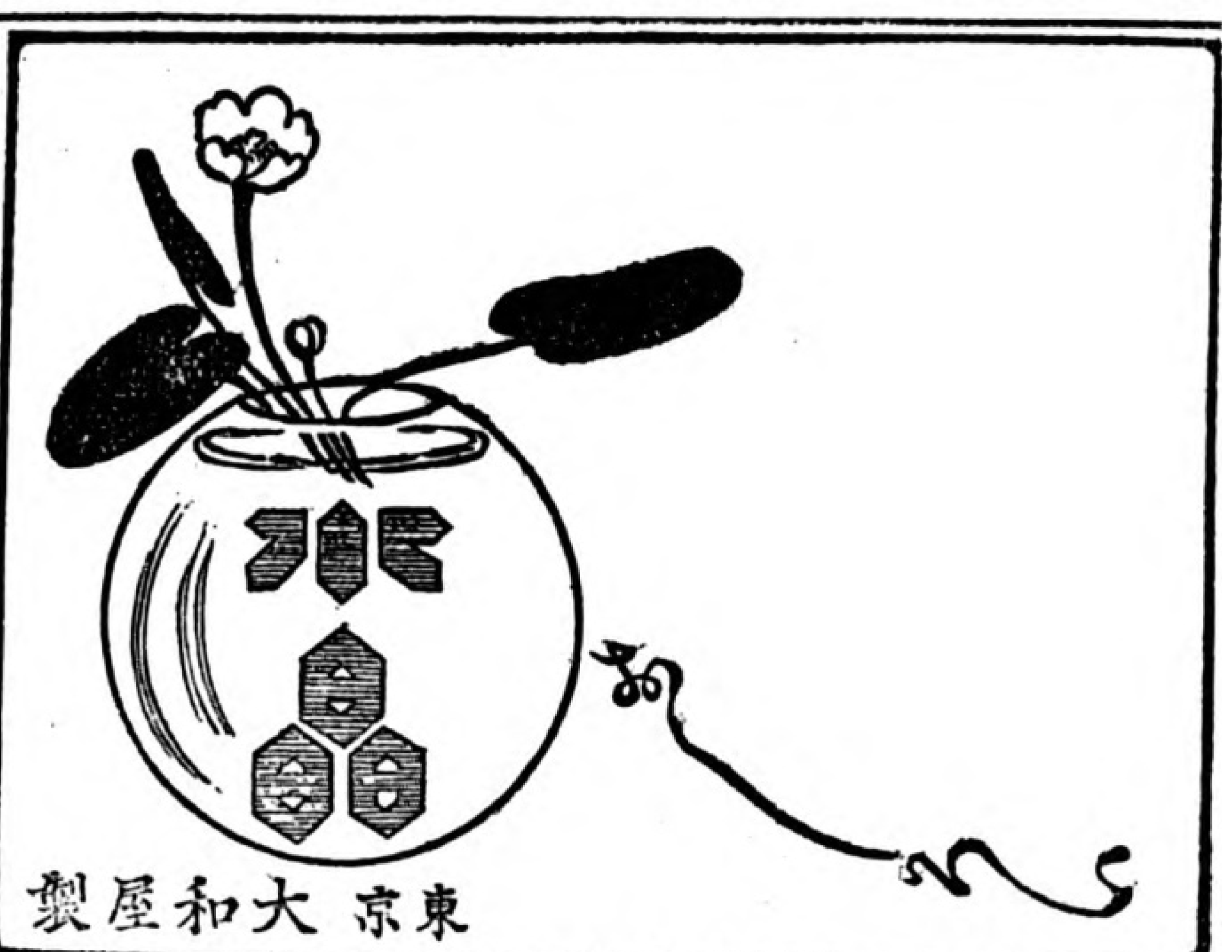
□**米國女學生の來朝**　米國カリホルニヤ洲ロースアンゼルスの女學校にては、夏期休暇を利用して生徒の見聞を廣めんと日本視察を企てしに志望生徒七十餘名あり既に汽船ミネソタ號に乘込みたる由、花の如き一團をわが京に迎ふるの日、わが女學界の活動こそ見物なれ。

□**文星の訃**　曩に川上眉山氏を不慮に失ひたるわが文壇は、今又客月廿三日國木田獨歩氏の長逝によりて、愈々凋落を極むるに至れり。悲哉。

□**女德論叢**　と奥村五百子詳傳と相次での冊刊、頗る好况を呈し、連日多數の購讀者を得つゝあり。淫風滔々として人情紙よりも薄きを嘆ぜしむる現今、斯の如き眞摯なる書籍の洽く婦人社會に歡迎さるゝを見るは、吾人の最も欣ぶ所なり。

□**帝國博品館**　銀座街頭巍然として建てる三層の高樓之れ模範大勸業場として、日本一の名を博せる帝國博品館なり。最新流行の物品を最も格安なる正札附にて陳列販賣し、市内は無賃にて配達すべく猶物品切手をも發賣すと。中々の勉强といふべし。

□**洗用ワツセル**　京橋區三十間堀三丁目三友商會にて販賣するワツセルは、油じみ油あか及食器、臺所道具等の掃除に特効ある由。時節柄試用し給ふべし。



東京　大和屋製

**耳鼻咽喉科**　赤坂見附下
醫學士　寺田豐作

**宮省用　內御達**
**大黑天印**

# 甲斐產葡萄酒

▲天下に名聲綽々たる大黑天印甲斐產葡萄酒は純粹生葡萄酒にして藥用に適す
▲金線銀線赤線の三種あり金線十年銀線五年赤線三年釀造經過年限に依り區別せり
▲今回新に製造發賣せる甘味甲斐產葡萄酒は坊間鬻ぐ處の甘味葡萄酒とは其品質を異にし芳香佳味婦人又は酒を嗜ざる人に適す

**帝國醫科大學御用品**
**新發明**

# 宮崎葡萄液

◎**宮崎葡萄液**は理學藥學博士長井藥學博士下山兩先生の指導の下に創製せるものにして恰も葡萄の實を食する如く毫も酒精分を含まず腦を刺擊するの虞なく香味共に佳良にして消化力を助け血を增し肉を肥し日常之を飲用せば偉大の効を奏し衛生上必須の飲料なり
▲夏季ブランデー、ウヰスキー、氷水等に混じ用ゆる時は其味尤も妙なり
▲婦人又は酒を嗜まざる人の交際場裡に最も適當の好飲料なり

!!!中元御進物用 一本入 二本入 三本入 半打入 一打入 化粧箱詰 色々!!!

發賣元　東京日本橋區通旅籠町
**甲斐產商店　宮崎光太郎**
電話浪花八七〇番　振替口座一九三七番
全國到る處の酒舖藥舖に於て販賣す

**外科**　午後往診　夜間診療
本郷區元町一の十四(淨水地西南隅)
醫學士　三原新太郎

**元祖ねびへしらず**
東京勸業博覽會賞牌受領

**小兒用**　登錄商標
乾濕冷熱定めなき此時候に兒供持つ人への御進物として無上の品に有之候

**直段**
表中形裏ネル　一才用二十錢　二オ用廿三錢　三四オ用廿六錢　五六オ用廿九錢　七八オ用廿三錢より四十二錢迄各種
表メリンス裏同上　一才用三十七錢　二オ用四十一錢　三四オ用四十六錢　五六オ用五十四錢
地方は代金引替小包送料五個迄十七錢五個以上は送費當店持海外は實費頂戴可仕候

製造卸小賣　東京日本橋區ふきや町(電浪二三四八)
**佃屋商店**

# 理想的洗顔料の發賣

**理想的洗顔料とは何か**
「パリー洗粉」即ち「パリーウヲッシングパウダー」これなり

**理想的洗顔料とは何故か**
原料は佛國より輸入して特に日本婦人の皮膚に適應せしめんが爲め東京化粧研究會に依賴して學理と實驗との配位考案を煩し漸く完成せる模範洗品なればなり

發賣元　東京新橋南金六町
あらひこ

あらひこ
**關口洋品店**
電話新橋二九〇二

**理想的洗顔料の價値は**
理想的模範品とまでに弊店が確言して發賣せるものなるを以て其効力の偉大は現品御試用の上御好評を給はらむことを
本品には箱入瓶入大小袋入の四種あり
賣捌は有名なる吳服店及洋品店小間物化粧品店にあり




Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新家庭の常備品

女子共立會會長
明治母の會裁縫主任
松江みさ子女史著　◎裝釘優美　全壹冊

# 子供西洋服のこしらへ方

定價金壹圓五十錢、郵稅金拾四錢
精巧コロタイプ版十數葉插入

一口に洋服と申しますと仕立方が困難でまた不經濟の樣に思召しも御座いましやうが此の本はどなた樣にも御解りになる樣な平易な文章で形紙の裁方製圖伸縮の方法用布の撰擇など迄一々叮嚀に說明し尚四百餘個の精密なる圖解と對照して御覽になれば極く初歩のお方でも容易く各種の服を仕立上げられる樣にして御座います可愛いゝお子樣方のためにこの一冊を是非御求めの程を願ひます

發兌　東京日本橋區檜正町一番地　服部書店

# 大根種　其外いろいろ

種苗代價表　御入用の御方は[illegible]

東京內藤新宿停車場際
日本種苗株式會社



# 一森式座椅子（特許第九〇一〇號）

甲は通常狀態にある座椅子にして來客と應接談話するに適し其の人體自然の姿勢に相應する故快感云ふべからず。

乙は少しく之を傾斜したる有樣にして新聞書籍を見るに好適するのみならず平座して少しく疲勞を感じたる際之を用ふるによし。

丙は更に之を橫臥せしめて恰も寢臺に椅るの狀態となり、夏日炎暑眠りを催す時、書見しつゝ其の儘安眠して毫も取り亂したる風體を示すの患なし、

丁は使用終りて之れを疊みたる有樣にして容積の小なると重量の輕きとは旅行等に携帶するに至便に且つ平素取扱ひ容易なり

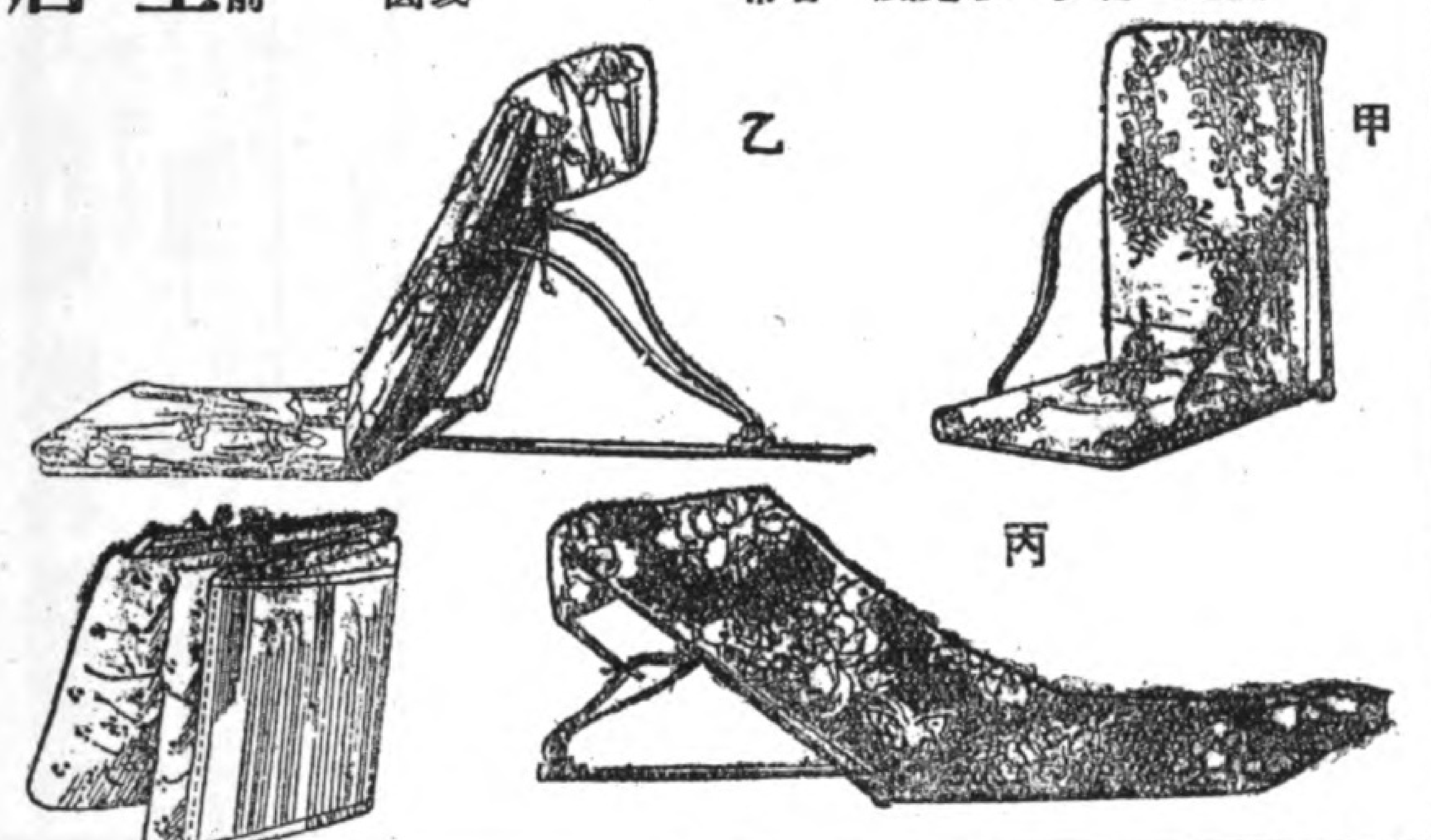
定價

一更紗蒲團付　金六圓五拾錢　特別金七圓
一メリンス友禪又は繻子更紗蒲團付　金七圓五拾錢　特別金八圓

（荷造發送賃共實費申受候）

右の外上等品は御好に應じ調製可仕候

東京芝區下高輪廿一東禪寺電車停留場前
製造發賣元　樂民堂（電話新橋三〇六五番）
特約店　東京　大阪　三越吳服店






綠蔭避暑の好資料・家庭銷夏の好伴侶

# 女學世界

七月一日發行　第九號　正價二十錢　郵稅二錢

◎婦人は何故に自殺するか……（中村鈴子）
▼出來損ひの婦人
▼乳呑兒を持つ母
▼一葉女史の面影
▼祖母本位の家庭
▼婦人自活の眞義
●子女墮落の第一步……山室軍平
◎家庭破滅の原因（今村判事）
●生理上の標準の娘……糸左近
●虛榮に憧るゝ婦人……玄女
◎最も進步したる夫婦の倫理　進藤道太郎
▼姿見かゞみ……
▼よしなし言……
▼よそ行の顏……
▼婦人自活の眞義
▼日用品研究趣味
▼令孃日記……金盞花
▲洗濯に就ての一般の知識……
●痱瘡娘　葉山しげ子
◎暗黑界に落ちんとする人々の徑路……典獄（藤原正路）
●前金郵稅共八冊一圓六十一錢　十六冊三圓十二錢……

特別懸賞課題を發表す

# 少女世界

七月一日發行　第九號　正價十錢　郵稅一錢　郵稅共八冊八十三錢　十六冊一圓五十六錢

◎少女唱歌　湖上の歌（花袋作　鐵笛曲）
◎お伽小說　天の橋姬（小波作　春汀書）
●名譽の賞牌……女夫
●時を表す語……善男
●風船蟲……小舟
●星物語……直人
考物當選披露

▼夏の湖邊
▼愛讀者の面影
▼お伽祭
▼女學校めぐり
●寄宿舍入り……文子
●意匠書披露……諸孃
●待宵草の話……天然
●お伽まつり……記者

◁口繪　盆燈籠　彩色石版
▷湖畔
●露子の旅行……春浪
●海底の女王……水蔭
●特別寄宿生……笠峰
●黑百合兄弟……濤蔭

（東京日本橋區本町）博文館（振替貯金二四〇番）



（注意）近來類似品を販賣する者あれば御買求の節は右瓶の形狀及び二頭の麝香獸に御注意を乞ふ市內賣藥小間物化粧品店に於て販賣致し居り候

# ムスク香水

●芳香の永く保つ點にて高評也

麝香獸印　大瓶壹圓　中瓶六十錢　小瓶二十五錢

東京日本橋本石町四　松澤常吉



夏半ゑり新柄

其他見切物澤山取揃へ有之候

[illegible]

東京市日本橋通り三丁目

[illegible]



耳鼻咽喉病診療　入院應需

淺草區向柳原町一丁目二番地左衛門橋通り
中村醫院　電話下谷壹壹三〇番



內科專門　杏雲堂醫院

神田區駿河臺　電本一六六九
院長醫學博士　佐々木政吉



齒科治療　ドクトル齋藤清太郎

麴町有樂町帝國ホテル向（電本千五百十九）



# 腦病脊髓病

神經衰弱、ヒステリー、中風癲癇
神經痛運動障害等

●午前　自宅　神田多町壹ノ八
●午後　岩佐病院　日本橋區蠣殼町

醫學博士　土田卯三郎（電本三〇五八）



# 日本興業銀行

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋內）

電話本局　一、二八〇〇番　三、三〇〇番　四一一番　（特）三三七番　一〇二番

資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目

一　擔保附社債に關する信託業務
一　有價證券其他貴重品等の保護預
一　有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一　地方債、社債、株式等の發行募集事務
一　各種の信託事務
一　國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一　國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一　法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一　定期預金、特別當座預金



本品は高尚なる麝香に愛すべきスミレの香料を多量に含むおゆへ其の香氣馥郁として薫りを失はざる一大特点を有す

東京日本橋本石町
本舖　井上吉兵衛




Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

資本金壹千萬圓

醸造元
**日本醤油醸造株式會社**
東京深川小名木川通
電話浪花（四）三七七三番　一五九五番

甘露醤油　ウメニホン

天下一品　マツニホン

最上醤油　フジニホン

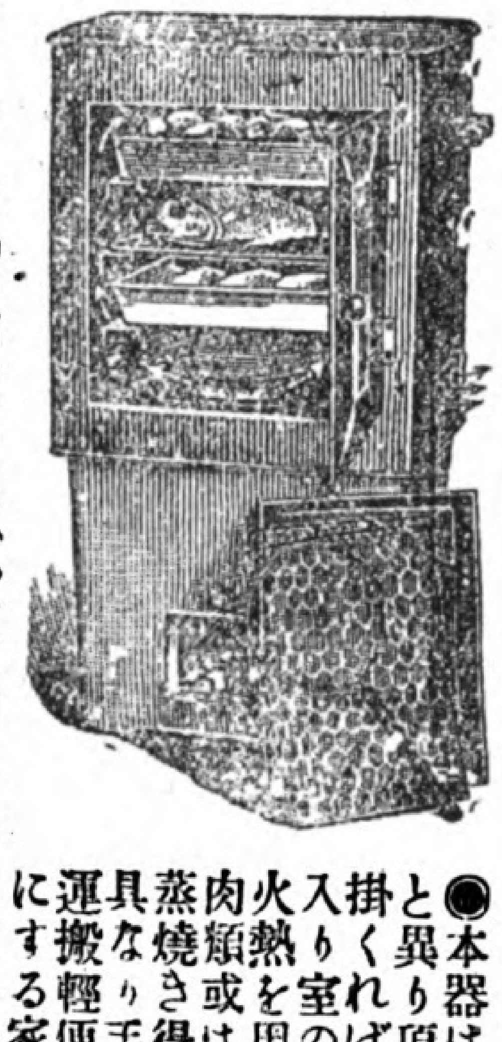
最上醤油　ヒシニホン

特約販賣店
東京日本橋區北新堀町
合資會社日本醤油東京販賣所
（電話浪花長一四六番）
東京酒類問屋組合
其他
酒醤油仲買店及各小賣店に於て販賣致候

●最上醤油以下數種あり

---

## 專賣特許
名和式蒸焼器
一名（テンピ）



◉本器は圖の如く在來の（テンピ）と異り頂上に火を要せず火地輪に掛くれば火力は下部中央の穴より入り室の上部中央の穴より平均に火熱を周圍に普及し迅速に魚鳥獸肉類或は（パン）玉子等を加減よく蒸焼き得る輕便經濟なる嶄新の器具なり手數と時間と燃料を節減し運搬輕便和洋割烹一切を迅速完全にする家庭臺所に必要の良器なり

▲定價（大）金貳圓七十錢（中）金貳圓二十錢（小）金壹圓七十錢●販賣御望の方は御相談に應ず

製造發賣元
東京市日本橋區蠣殼町二ノ一五
電話浪花千百七十七番
**名和商店**

---

Always get the Emulsion with this mark—the Fishman—the mark of the "Scott" process!

### 肺炎に罹りたる後スコット乳菓を用て健全となりたる例證

愚息儀肺炎に罹り滿三ケ月間伏蓐罷在り萬一回復するも結局は肺結核となるべしとの事にて總身肉落ち骨顯れ見るも不憫の容体と相成申候然るに醫師の勸告に由り**スコット**乳菓を服用せしめ候處未だ一壜も飲み盡さゞるに食慾大に進み總ての經過良好となり現今にては却て罹病前の何れの時よりも健全にて相替らず**スコット**乳菓を嗜好致候拙者共は**スコット**乳菓が愚息に與へたる好果を視て右愚息の平癒を以て全く**スコット**乳菓の効驗の致す所と確認致候

千九百六年三月十一日

シーフキルド、ドールセット街六拾三番地
ジョン、イー、ブレーキー

### 右快復の理由

右ジャッキー、ブレーキー、が肺結核とならずして快復したるは全く**スコット**乳菓中に含有する優逸なるロフオテン大口魚肝油（最上等にして最高價なる肝油）が其肺臟を癒やし其全身に良好堅靭なる筋肉を造成せしむるの精力を有したるが爲めなり

他のありふれたる大口魚肝油乳菓は斯く**スコット**獨得の完全なる製法に由りて充分に消化し易くせられたる最も純良にして最も活力に富める肝油にて製せられたるものに非ざるが故に斯の如き偉功を奏する能はず

包裝の大口魚を負へる漁夫は前述の如き驚くべき快復が唯偶然のことに非らずして確實の事實なることを保證す

---

## 中元と御贈答品

### 最も喜ばるゝ御進物品は何ぞや？

最新流行の内外百貨を取集たる三越呉服店は中元及暑中の御進物用として特に左の品々を澤山に準備致し置候間多少に拘らず御用命奉願候

▲**呉服物**―白縮緬、白絽、染帯、壁御召、袴地、絽友禪、明石、透綾、上布類
▲**木綿物**―紅梅中形、友禪青梅、吾妻セル、絞新絹、菖蒲縮、紺絣、白絣類
▲**雑貨類**―帽子、洋傘、香水、石鹸、手巾、玩具、文房具、履物、旅行用品類
▲**美術品**―繪畫、陶器、磁器、七寶、漆器、團扇、扇子類
▲**商品切手**―當店の商品には總て共通にて体裁頗る宜し

デパアトメント、ストーア

**三越呉服店**
東京日本橋



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

七月一日より十四日まで
第二回福引大賣出し仕候

七月五日より
コドモ部新設仕候

御兒さん方の御衣裳及手遊るい其外なんでもあります

日本橋通四丁目

均一法元祖
松屋呉服店

シンガーミシン

非常大割引
七月十八日限り

東京銀座　横濱山下町
仙臺國分町　札幌南一條

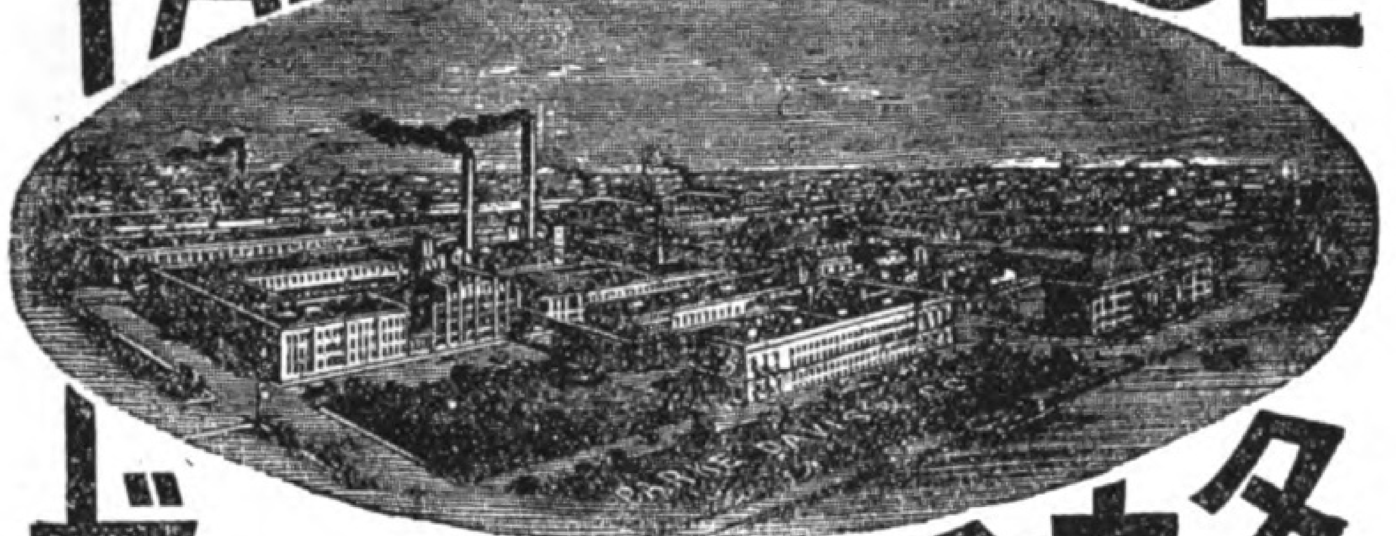
シンガー會社

洗濯髪洗外用途弘

妾事薄毛にて種々藥を試しも効なく醫學博士令夫人より奇藥を得薄毛も濃くなり生へざる所迄毛生し嬉さの餘り困る方に分與せしに三百有餘の禮狀を受け不思議のまゝ倘困難者へ告ぐ三錢郵券添御照會あれ：：

東京々橋越前堀一ノ四　河村愛子

# TAKA-DIASTASE



# タカヂアスターゼ

**世界最大の製藥工場**

パークデビス社は完全なる設備を有する世界最大の製藥會社にして、上圖は其デトロイトに於ける本社工場の全景なり。此他同社は加奈陀及英國に同一規模の分工場を有し、世界の醫家が要求せらるゝ總ての醫藥品を製造す。

**高峯氏發見消化新劑**

タカヂアスターゼはパークデビス社の製品なり。完備せる装置の下に熟練なる技術者に依り、製出せらるゝ本劑は品質純良、毎瓶强度均一にして、又其效力永久不變なり。醫師及藥舖諸彦！模造品製造者の誇大なる虛僞的廣告に誤らるゝ勿れ、世上本劑以上の賣品なきは歐米及吾多數醫學大家の實驗報告に徵し確認せらるべし、需用者は必らず高峯氏タカヂアスターゼと指定せられよ、本劑は粉末錠劑水劑の三種として發賣せり各地藥舖にて販賣す

代理店　東京南茅場町　三共藥品合資會社

七月一日より
中元大賣出し

御贈答品幷に御仕着物類種々取揃へ有之候寄贈禮、見切反物は例により日々差換へ陳列致置候

五拾錢均一品幷に和洋小間物は御進物よ御恰好の品十分取揃へ有之候

總金壹萬圓の福引

第四回福札差上申候

今回は最終に候間是非御慰みに被遊度候

神田今川橋

松屋呉服店

中元賣出し
五日より十五日まで

季節物品取揃候

半ゑりは
ゑりまんに限る

本店　神田表神保町壹番　電話本局二八五三
出店　新橋博品館階上

中元贈答品
帯止、帯揚
袋物、各種

小兒病診療
宅診午前　往診午後
淺草區福井町貳番地
醫學士　内田愼太郎
●電話下谷七一八番



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

理想の婦人
愛國
深き母、常に快活なる氣を以て子を育する母の爲身を愛し、家の事を執るに明敏婦人なる

家庭にあり又交際場裡にありて常に清涼快活ならんには「ゼム」を服用せらるべし

◎主効

◎頭痛◎眩暈◎氣鬱◎舟車醉◎時候傷◎水傷◎食傷◎消化不良◎口熱◎口中惡臭◎其他常用すれば氣分を爽快にし音聲を美にし諸種惡疫を豫防す。

定價　百粒入七十五錢　百粒入廿四錢　壹圓容器入廿五錢　十粒入　百六十九錢

東京　愛國堂大阪　高崎　山崎兄弟　馬喰町二丁目　榮橋三丁目　京山崎二丁目　麗山商會

◎發行部數十萬東洋第一と萬朝報が評せし本誌の新機軸を見よ

趣味多く實用に向き且婦人の常識を養成す

# 婦人世界

七月一日發行　三卷八號　一冊金十五錢郵税一錢五厘　六冊郵税共九錢

▲實驗上より見たる女學生の運命（判斷法）……三輪田元道

◎胎兒は如何に成育するか：斯の如きは必ず失敗す育兒法……榊博士

◎面白き婦人頓智談數種……

◎姙娠中の水腫……

◎上戸の向の料理……弦齋夫人

◎少女欄（新作たまき物語）

◎教師が女學生より受けし教訓……嘉悦孝子

◎他人の家を訪問して不快に感じたる事……川瀬ドクトル夫人

◎英語は如何にせば最も早く上達するか……藤生貞子

◎女家庭教師の苦心實歷……内村留子

◎軍人の妻としての廿年間……後閑菊野

◎私の讀書法

◎整顯術にて美人となる：

◎小說（嫁ぐ人）……小野夕女

◎夏季の牛乳（ミルク）と……加藤博士

◎傳導師が藝妓を救ひし實話

▲男女結婚論（見合ひは如何にするか）村井弦齋

東京京橋南紺屋町　實業之日本社　振替貯金三二六番　賣捌各他

[illegible]油　本舖　井善

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山内科院
午前診察　午後往診
京橋區鎗屋町十一番地　電話新橋千七百四十六番

内科病特に腦脊髓神經疾患
峰内科醫院
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世
神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）

產科婦人科專門
診察毎日午前　入院隨時
岩田病院
淺草區左衞門河岸　電話下谷一〇二八

〇院長 ドクトル 木村順吉
婦人科產科　木村病院
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）

水源產科婦人科病院
〇神田猿樂町十二番地　〇電話本局千八百九番　〇院内ニ產婆學校アリ

◉婦人病專門
院長 櫻井克己
櫻井醫院
芝明舟町十九虎門外宮樣前　電話新橋三三二四

護身良藥

◉寶丹の一匙は心身の官能を振へ興し爽快活達ならしめ又食物の消化を助け百毒を解す人毎に御服用ありて健全を增進せられよ

◉僞物多し下谷區池之端仲町廿七號所有地守田治兵衛御確認を乞ふ

寶丹定價
家庭用　金壹圓　金貳圓　金參圓
懷中用　金貳拾錢　金參拾錢　金五拾錢
御試用　金拾錢

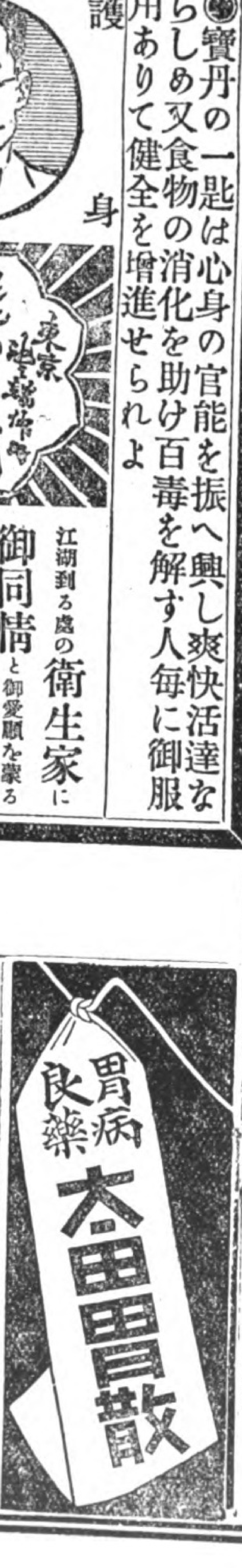
江湖到る處の衛生家に御同情と御愛顧を蒙る寶丹は皆樣の御好意にもさらめ爲め三十錢器以上に高尚優美なる洋銀小匙を添へたり

七月二日より（一日棚下ろしに付休業）
# 中元賣出し

中元御贈答品として吳服類、小間物化粧品類、美術及工藝品、其他最新流行半襟等種々取揃へ置申候

第二回『タイムスタンプ』
二日より十六日迄
翌日午前十時店内に於て抽籤仕候間御來觀被成下度候

大丸吳服店　日本橋通旅籠町



胃病良藥　太田胃散

きらふ赤毛の人に告

二瓶一組小卅錢中五拾錢大一圓前金無送料
代金引換注文は廿二錢申受、取次人申込該
液劑は獨逸醫學博士の發明に弊店多年の試驗劑を加味せし新藥にて僅か十分間に染上り黑き光澤を發し美麗なるは烏羽の如くして永久禿げる事なく毛を切らず皮膚に無害なるは弊店保證す明細書は郵券貳錢送れ

毛染所　東京京橋區本材木町三ノ四　岡田商店

ゑり善
季節向流行新柄御半ゑり各種
東京日本橋區堺町通ふきや町
電話浪花千二百七十番




Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

## 洗用ワッセル

●此ワッセルは油じみ油あか如何なる汚れでも揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります

●用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し後湯又は水にて洗へば自然に脫ますシャツの如きは(拾貳號)入一本にて貳百枚は必ず洗へますす御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶し拭してからじを洗ふ樣に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具の解き掃除にも有効です

定價　拾貳號入 金拾五錢　六號入 金八錢　袋入二錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
英國製ワッセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワッセル製造元
**三友商會**

## 樂器十字屋書籍

西川製オルガン　發音器
振替貯金口座七一五八
東京銀座　電話新橋 一二五九

## 森村銀行

東京市日本橋區通一丁目
合名會社 森村銀行
電話(特)本局六七三番
電話本局四九八番

定期預金 六ヶ月以上 年六分五厘
當座預金 百圓に付日步 一錢
小口當座預金 同日步 壹錢參厘

## パスタムスク石鹼

東京博覽會機織館製造特賣中畏くも麻布兩内親王殿下御召料たる光榮を賜ふ

## 玉川屋

御好みによりなまきぬ御召縮緬甲斐絹其他呉服物
電浪花五百八十八番

## 新刊　大阪朝日新聞所載　上方見物

●藪野椋十著　北澤樂天表紙意匠及見返漫畫

大坂天王寺の新鑄の巨鐘は世界第一と誇つて居るがどういふ譯か鳴らない　目下上方人の大問題となつて居る藪野椋十とは誰？これは當代唯一の滑稽老爺と評判されるが此の見物中少も自から笑つた處が無い其れが一字一句讀者に腹をよらせるから不思議さ!!!

ハイカラ版二七〇頁　口繪光澤寫眞版京坂名所五十景
定價…一部 金六十錢　郵税 金六錢

東京市三丁目丸の内 東京有樂町
**有樂社**

## 最上醬油　キハク印　香

於聖路易博覽會　名譽大賞牌受領

醸造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衛門
信略號(キハク)又(ハク)

キハク印醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛
電話浪花五七七四

## 御中元用

男女帽子
洋服附屬品
リボン造花
御婦人小間物
御進物適當品

神田小川町通裏神保町一
**中久商店**
電話本局 三一五三

## 朝日堂

御婦人用
夏ショール
小兒用帽子
夏手袋沓下
ハンカチフ
リボン造花
小間物化粧品
其外御進物向當品種々

東京牛込神樂坂下
**朝日堂**
電話番町一六九九

## 帝國博品館

本場の特色
あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し市内は無賃で配達致します
地方御注文を敏速にして誠實に取扱ひ致します
勸業場　日本一　東京名所
東京新橋角
**帝國博品館**
電話新橋 一六五二 二六二二

## 伊勢由

最新流行帯地呉服半襟其外袋物一式
東京日本橋通一丁目
電話本局一五六
振替貯金一一八五六

## 内科一般　板垣亭

東京神田美土代町三丁目十九番地
午前宅診　午後往診
電話本局貳千九百七十番

## 東洋内科醫院

院長診察月水金木前松田醫學士診察火土前窮者施診火木前入院診斷隨時應需松田、林、兩副長は目下當院に在勤
東京神田區駿河臺鈴木町二（御茶水橋畔）
電本 八八八(病院用) 八九八(私宅用)
院長　醫學士 高田畊安

## 南湖院

神奈川縣高座郡茅ヶ崎村濱(停車場所在)
河野、中村、兩副長は目下當院に在勤院長診察土曜日午後〇同時窮者施診副長診察月、火、水、木、金、土、午前

## 岩佐病院

日本橋區蠣殻町二丁目廿三番地
(電話浪花六九七番)
診察時間　自午前九時至正午十二時

内科婦人科　院主　岩佐純
内科　院長 ドクトル 岩佐新
(獨逸留學中)　副院長 醫學士 高田壽
外科　醫學士 山村正雄
産科婦人科　醫學士 西村漸
脳病脊髓病　醫學博士 土田卯三郎

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

明治四十一年七月五日發行(毎月五日廿日二回)
(定價金三錢五厘一ヶ月七錢郵税不要)
(廣告料一行金六拾錢)
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 永持德一
發行所 東京麴町區飯田町 愛國婦人會發行所
發賣所 同 京橋區南鍋町 株式會社隆文館
印刷所 東京牛込區市ヶ谷加賀町 秀英舍工場

# 附錄 愛國婦人會記事

愛國婦人會記事

□評議員會　六月廿四日午後二時より開會し左の件を議す。

一、本會々員贊助員取扱規則同救護規則同會計規則改正公布の件

一、三重縣支部長より出願に係る同支部授産場土地買收費補助の件

右何れも原案を可決せり。當日の出席者は岩倉會長、三井監事、阿部、小笠原、井上、長谷、鍋島評議員外廿名なり。

□參事會　六月十七日午後二時より例會を開く、濱尾、松平、關、鳩山、高木、三輪田、の六參事會員出席す。

□理事顧問會　六月十八日午後二時より開會、會務上重要の件を議せり。出席者は岩倉會長、岡部、谷兩理事、岡部、清浦、松平、澁澤、高木の各顧問、佐藤會計監督なり。

□定款變更認可　豫て出願中なりし第七回總會に於て決議せる本會定款中變更の件は、六月廿五日內務大臣の認可を得たり。

□失明軍人慰藉　去月廿四日評議員會後今回東京盲啞學校を卒業せる失明軍人十五名を愛國婦人會本部樓上に招き茶菓を供し岩倉會長より左の主旨にて慰藉の詞あり

皆さんの斯くお氣の毒なる有樣になられしは國家の爲とは申しながら何ともお慰めの致し樣はありません。吾等の今日此光榮ある國家社會に安穩に暮し居るは勿論　陛下の御稜とは申しながら又皆樣方の御蔭も少なからずと深く感謝致して居ります。爲めに我々巾幗婦人亦應分の義務を盡さん爲に本會を設立し皆樣方の援護を致さん爲に全國到處に支部も設けありて皆樣方には甚しき御不自由は掛けぬ積てありますから此意も諒せられ度し。今回御卒業なりしに就きては夫れ〲御郷里に歸られ其道々の仕事に從はるゝことゝ思ひますが恰度氣候も不順の折柄國家の爲め一層御自愛あらんことを祈ります。

尙各員に對し金拾圓宛の贈與あり殊に貴婦人方より各自に俥を與へられしにぞ孰れも感謝の意に充てるが如くなりしが當日一同の試みつる點字讀みの巧妙なるには會長評議員初め一同感動せざるものなかりき終に右十五名の姓名及各自の屬する支部名を揭ぐれば次の如し

| | | | |
|---|---|---|---|
| 愛知支部 | 吉田悅次郎 | 埼玉支部 | 中山寬一 |
| 福島支部 | 栗城卯太郎 | 長崎支部 | 谷川幸治 |
| 愛知支部 | 伊藤金二 | 岩手支部 | 高田村之助 |
| 兵庫支部 | 吉益應三郎 | 和歌山支部 | 日高安太郎 |
| 埼玉支部 | 大森吉三郎 | 東京支部 | 小田平吉 |
| 東京支部 | 大久保清太郎 | 茨城支部 | 臼井豐吉 |
| 石川支部 | 田中庄太郎 | 長野支部 | 山本榮吉 |
| 山梨支部 | 岡部由太郎 | | |

## 支部之近況

### ▽韓國本部近況△

□演藝會收支報告　先般同本部に於て開催せし慈善演藝會には、統監を初め日韓の紳士淑女約二千名出席、三日間共非常なる盛會なりしが、其收支左の如し。

一金二千九百五十五圓參拾八錢　收入總高

內譯

金參百圓　伊藤公爵寄附金

金參拾圓　長谷川子爵仝上

金貳拾圓　岡崎男爵仝上

金貳千五百九十四圓六十八錢　入場券料

金十圓七十錢　雜收入

以上

一金八百九十五圓二十錢　支出總高

內譯

金百二十五圓四十五錢　劇場一切費

金五百五十圓(奏樂劍舞謝儀)　演藝者挨拶

金參拾五圓五十錢　印刷費

金九十七圓七十九錢　會場諸雜費

金二十八圓七十一錢　人力人足費

金十五圓二十五錢　用紙類及諸雜費

金四拾貳圓五拾錢　座方、手傳者等雜費

以上

差引金二千六十圓十八錢　收益金

### ▽宮城支部近況△

□癈兵院慰問　前號に報ぜしは些少相違の點あるを以て再び述べんに、第七回本會總會へ出席の爲め上京せし龜井支部長は總會閉會後率先して癈兵院を慰問し、同院に金五十圓を寄贈し且つ一行の諸氏よりは袋入の煎餠を各自に贈り慰藉したりと。

### ▽鹿兒島支部近況△

□招魂祭　去五月六七兩日縣催招魂祭に參列せし、軍人遺族約千三百名に對し當支部にては式場內に遺族接待所を設け、參列の遺族を懇切に案內接待し、七日には折詰及茶を饗し、八日には菓子及茶を饗して慰藉に努めたりと

### ▽熊本支部近況△

例會　客月十五日午後一時より赤十字社熊本支部に於て例會を開き、幹事以下會員四十餘名出席、支部よりは河內山主事植村島田の二事務員出席し、先づ河內山主事開會の辭を陳べ、諸般の報告をなし南木大憲師は女子の精神修養に就ての、極めて適切有益なる演述を、筑山女史は例に依り最も實用的に豆腐と野菜との料理法を一々實驗講話せられしかば、夫人令孃には殊に興味を與へしなるべく、終りて今般佐賀縣へ轉任せらるゝ豐島事務官夫人より暇乞の挨拶あり、尙石原元副長も出席告別ある筈なりしも、出發前多用の爲、欠席されたれば河內山主事より其の披露あり午後五時散會せり。

## 長野支部小縣北佐久兩幹事部出張報告

富樫眞喜子

四月四日　午前八時二十分上野驛より直江津直行の列車に乘じ出發せり、大宮驛にて前列車の稲川鴻巢間に於て一大故障ありたるが爲め、其の工事の復舊するまで停車するの已むを得ざるに至り、待合所に休憩すること約三時間、漸く十二時二十分頃に及び大宮驛を發せしも、規定時間の變更せし爲め、各驛に於て三四十分宛停車、殊に輕井澤驛にて一時間半程停車したる爲め、上田驛に着したるは夜十二時なりき、直に上村旅館に投す。

四月五日　早朝郡役所に至り、武井顧問同幹事部長八木郡視學及浦里村より出迎の爲め來田されし池田氏等に面會し、郡役所指定の郡築旅館に至りたり、支部よりは乾主事來田されたり、午前十一時武井幹事部長乾主事武內事務員同行浦里村に赴き、十二時二十分會場なる小學校に着す、井澤村長、池田氏夫婦を初め學校職員木村幹事會員等待受けらる、午後一時開會、來會者約二百五十余名、一同着席するや池田氏の式辭次に君か代の唱歌次に令旨捧讀次に幹事部長の告辭次に來賓の祝辭次に木村幹事の謝辭次に唱歌(我身も家も)あり、是れにて式を終り、暫時休憩、夫れよりして幹主事演說し次に自分講話せり、其の閉會を告けしは四時半にして一行の歸宿せしは六時なりき。

四月六日　午前九時四十五分上田發の列車にて、武井幹事部長乾主事八木委員同行丸子村に赴きたり、大屋驛にて下車、此處より腕車を驅りて同村に着したるは十一時なりき、直に會場なる小學校に入る、小井土收入役清水校長並に同校女教員等斡旋せられたり、午後二時開會、來會者約百五十余名、校長の式辭、君が代の唱歌、令旨の捧讀、會務の報告、幹事部長の告辭、幹事の答辭次に唱歌(我身も家も)あり次に八木委員の演說次に講話、四時半閉會、直に腕車を驅りて神川村字大屋區小林藤次郎方(總會場)に至る、當所は愛國婦人會大屋婦人會報德社一周年紀念會合同の總會にして、且つ尙武會をも兼ねたれば多數の老人も出席したり、式は一行の到着せさる前既に之を擧行されたるを以て、着後直に一同と撮影せり、夫れより講話に移りしが、最初に山邊村長の開會の辭次に矢島委員の謝辭ありし、此日來會者約二百余名、尾崎郡會議員小林校長を初め多數の有志者も列席され頗る盛會なりき、七時過閉會、大屋館にて前記の有志諸氏と晩餐を偕にし、後歸宿したる時は正に十時なりき。

四月七日　午後二時より上田町女子小學校に於て講話會あり、武井顧問同幹事部長八木委員石田町長鈴木同校長を初め鈴木幹事外數名の役員其他附近の學校職員役場吏員等參會、聽衆約三百余名、鈴木校長開會の辭を述べ次に自分講話次に顧問の勸誘演說あり、五時過閉會す、當日乾主事は病氣の爲め在宿靜養されたり。

四月八日　午前九時四十五分上田發の列車にて、北佐久郡小諸町に至る、武井顧問同幹事部長石田町長武內事務員鈴木校長停車場に見送られたり、八木委員は乾主事(同主事は病氣の爲め長野に歸らる)の代理として同行小諸町に來られたり、同驛には池田町長伊藤事務委員大井事務員野々山幹事等出迎はれ、會場(小學校)には渡邊顧問同幹事部長渡邊郡視學赤羽井出兩幹事各町村長贊助員有志等待受けらる、當日は生憎にも降雨加ふるに寒氣烈げしかりし爲め、來會者も豫定よりは其數を減じ約百七十余名計なりき、式は最も嚴肅に擧行され、了て來賓會員共に午餐を喫し、後講話に移りたり、本日は講談尺八等の餘興さへありたれば、來會者は大に滿足の體に見受けられしも、其の歸路に就く頃は寒氣一層加はり殊に霰さへ繽紛として降り頻りたれば、遠方より來會せられし人々に對しては氣の毒の至りに堪へざりき、我等一行は小諸町を辭し三里餘の道程を經て岩村田町に着、籾澤旅館に投宿せり、乾主事代理八木委員は歸田されぬ。

四月九日　昨日來の寒氣尋常ならぬと思ひしに、果せるかな今朝は積雪尺八寸餘に及ぶ、無情にも今日集ひ來る幾多愛國女子の道を埋めたり、而して霰は尙は繽紛として何時歇むべしとも思はれず、人々皆燻火を圍みて天候の不穩なるを語り合へるのみ、されば幹事部に於ても折角盛大に擧行せんとする總會の空しからんとするを憂へつゝ、郡役所の小使を町內に走らせ之が出席を促せども絕て其の効なく、殊に附近の村落よりするもの〻如きは、一名も來會する者無かりき、併し此は全くの天爲にして復た奈何ともすること能はざれば、已を得ず少數の人を以て總會を開けり、閉會を報じたるは午後一時半過にして、渡邊顧問同幹事部長渡邊郡視學市川町長阿部助役臼田校長野々山警部臼田野澤山小林の三幹事大井事務員其他學校職員町役場吏員等列席、會員は約三十餘名に過ぎざりき、式は前日の如く嚴肅に擧行し閉式後講話に移りたり、當日は非常なる勇氣と熱心とを有する人の集合なれば、寒氣の烈敷にも關らず、長時間の講話を靜肅に聽き取りたるは本會の爲め多大の效果ある事と信ず、其の閉會を告げたるは五時頃なりき。

四月十日　降雪は全く歇み快晴となりたるも、道路の惡しきこと言はむ方なし、されば渡邊幹事部長初め幹事諸氏に於ては、望月村への出張を斷念されたり、依て渡邊顧問渡邊郡視學大井事務員同行午前七時半旅館を出て、三里の道程を經、望月村へ着したるは十一時なりき。

**社告**

支部の狀況を報せられたし。
但一行十八字詰、簡單明瞭の事



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

# 支部の近況

### ▽富山支部近況△

□射水郡幹事部　伏見町分區に於ては去月九日第五回總會を開き、宇佐見支部長、加藤評議員外事務員二名出張、午后二時伏木尋常高等小學校講堂に於て開會せり、總裁殿下御寫眞の拜賀終りて同本分區委員の開會の辭、長谷川幹事の精算報告に次て、宇佐美支部長は軍人遺族並に癈兵二十七名に對し慰問料を授與し併て丁寧なる慰藉の辭並に會員に對する將來の希望を述べ續て南井全郡顧問の祝詞、草野支部事務員の會旨普及演說ありて閉會直ちに長谷川幹事の庭園內なる園遊會に移れり。會場には幔幕を張り種々の裝飾あり各種の模擬店には夫々設備整ひありて三百の會員は、何れも和氣靄々の裡に散會したるが實に近來稀有の盛會なりきと。

### ▽韓國本部近況△

□鎭南浦委員部　日韓の各階級、各方面の重もなる紳士を賛助者とし婦人の多數を網羅して博愛仁慈の爲めに盡くさんことを期し鎭南浦に創設せられたる愛國婦人會當地方委員部第二總會は已記の如く五月廿四日の日曜午后二時より鎭南浦尋常高等小學校樓上に開催せられ係り委員と役員との周到緻密なる準備によりて遺漏なく最も盛大に執行せられぬ先づ校堂樓下に向つて左側を來賓、贊助員の休憩所に宛て其右側を婦人側の休憩とし定刻より多數參集せられたるが開會前同校の雨中體操場に於てスシ、ウドン、ソバ、汁粉の饗應あり操鈴一聲軈がて定刻を報ずるや男子、婦人各種上の設けの席に着し、地方委員部長秋本夫人は恭しく起つて總裁宮智惠子殿下の御眞影を開帳し各員起立敬禮し次ぎに君か代の合唱ありて一同肅然傾首次きに京城より本會の爲めに出張せし大橋主事は恭しく御令旨を捧讀し次ぎに島端主事は同會の會務を報告し終りて流暢なる韓國語にて韓國婦人にも之れを通譯し次ぎに秋本地方委員部長は別項記載の式辭を朗讀し次ぎに矢野夫人は左の祝電を朗讀す

貴委員部の總會を祝し隆盛を祈る
　　公爵夫人岩倉本會長

次ぎに大橋主事は鴇原本部長の祝辭を代讀す

祝辭

茲に愛國婦人會鎭南浦委員部第二回總會開催せらるゝに至りたるは誠子等の最も喜ぶ所也

今や本會の事業は日韓會員諸子の熱誠なる同情に依りて各地に於て益々發展の氣運に向へり希くば自今一層同心協力本會事業の伸張に努むると同時に我友邦の姉妹と倶に親睦融和以て兩國の幸福を増進し總裁殿下の叡旨に副ひ奉らんことを

明治四十一年五月二十四日
愛國婦人會　韓國本部長　鴇原　誠子

朗讀終りて同氏は更らに祝辭的希望を述べ祝辭朗讀あり夫より秀雄氏は左の祝電を朗讀す

盛會を祝し將來の發展を祈る　伯爵　兒玉　秀雄

盛んなる今日の總會を御祝ひ申す　韓國本部副長　兒玉サワ子

謹んで總會を祝し隆盛を祈る　平壤委員部長　菊池スカ子

盛會を祝す　新義州委員部顧問　岡部　三郎

次ぎに秋本委員部顧問は顧問として一言すべき事ありとて最も懇篤なる口調にて

私は顧問として一言したき事あり私の本會に對する希望の一は本會によりて同胞婦人は互ひに親密なる交際を結び進んで韓國婦人と提携して日韓融和の道を圖り之れを社交上に及ぼし益々本會の伸張を圖られたき事第二には本會の事業として將來慈善の爲めに盡くしたき者へにつき子なき親、親なき孤兒其他同情すべき無告の者あらば口頭なり、電話なり又書面なり何れの方法にても民長まで申出てられたく民長は進んで其事實を取調べ委員と協議の上相當の取計らひを爲すべし韓國側にても有力なる二三の韓國人士に依頼すべき筈につき右同樣の憐れむべき者あらば依頼せし人に遠慮なく申出られたく取調の上相當の救助を爲すべし云々

右の趣旨は島端氏によりて韓國婦人にも傳へられぬ次ぎに安田寛子婦人は朗らかに別項の答辭を朗讀し次ぎに秋本夫人は恭しく御眞影を閉帳し此れにて全く當日の式を終りぬ夫れより福引、總裁宮智惠子殿下の御染筆に菓子折、活動寫眞入場券を添へて一々來會者に配布し校堂の前にて記念撮影を爲し散會せしは午后五時頃なりき當日の來會者は三百余名にて韓國婦人の出席意外に多かりしは全く委員諸氏勤勉の結果なるべし

### ▽茨城支部近況△

愛國婦人會本縣支部人口比率　去月末日の調査に依れば左の如し

| 郡市名 | 現在會員 | 會員一人に對する人口 | 賛助 |
|---|---|---|---|
| 水戸 | 八六六 | 一二一餘 | 三一 |
| 行方 | 七三九 | 三五 | 三 |
| 多賀 | 六九八 | 四一 | 二 |
| 西茨城 | 六九四 | 四三 | 六 |
| 那珂 | 一、二五九 | 四四 | 五 |
| 猿島 | 九二八 | 五四 | 〇 |
| 新治 | 八七九 | 六三 | 一 |
| 鹿島 | 四八一 | 七一 | 一 |
| 北相馬 | 三三四 | 七九 | [illegible] |
| 眞壁 | 六五一 | 八〇 | 一一 |
| 結城 | 四九三 | 九六 | 〇 |
| 久慈 | 五三一 | 九九 | 〇 |
| 東茨城 | 五三六 | 九九 | 〇 |
| 筑波 | 三七〇 | 一〇一 | 一 |
| 稻敷 | 三九五 | 一一五 | 〇 |
| 計 | 九、八五四 | 六二 | 六[illegible] |

### ▽三重支部近況△

□機織業　當支部に於ては津市其他の紡績事業を經營すべきに付過般來右機織場に充んが爲め津市元立誠小學校の校舍買入方を津市に交涉中なりしが今回津市參事會において同校舍建坪百廿三坪を六百七十六圓五十錢にて讓渡す事に決定し不日其手續を爲す由

## 宮城支部遊說記

第五回報告　野中　彌智子

廿三四日　休會

廿五日　午前十時仙臺發列車にて奥宮副長石森主事高岡幹事部長同行名取郡岩沼町に向ふ長町驛に着するや同顧問介乘全十時四十五分着佐藤高橋兩幹事會員二三名佐藤町長鈴木收入役停車場に出迎はれ會場小學校に入り晝餐を喫し、午後二時卅分開會當日は消防組大會に付手踊の餘興ありし爲、臨來僅かに二百余名高岡顧問開會の辭を述べ了りて講話、五時卅分閉會の後遺族に向ひ奥宮副長懇篤なる慰問をなし、菓子を贈與され夫より一行は幹事部長顧問全行同驛六時廿分發列車にて先に出迎はれし人々に見送られ七時過着仙奥田旅館に宿泊せり。

廿六日　午前十一時十五分發列車にて、武田評議員右幹事部長全行增田町に向ふ全四十分着同郡幹事莊司益吉氏(有志者)夫妻並に阿刀田氏(有志者)夫妻停車場に出迎はれ、一行は富豪家渡邊源之助氏宅に入り、晝餐の饗應を受け阿部幹事宅に入り、茶菓の饗應あり夫より莊司氏を自宅に訪問し、直に會場なる小學校に入る、午後二時卅分開會高岡顧問閉會の辭を述べ了て講話五時廿分閉會即時十名の申込者あり武田評議員遺族に向ひ懇切なる慰問をなし、菓子を贈與され六時四十五分着田驛發列車にて歸仙奥田旅館に宿泊せり因記、阿部、渡邊兩家は兄弟にて家庭恭の如く、慈善事業にも至て熱心家なり、莊司氏は篤實溫厚の人望家にて是亦慈善家なり、當日の講話會に付ても右の諸氏非常に斡旋の勞を執れり

廿七日　零時卅分能勢評議員石森主事全行腕車を驅り長町に向ふ、一時着會場なる郡會議事堂に入る二時卅分開會當日は衝突大雨にも拘らず全國の模範村生出村長長尾氏夫妻道程三里なるに大雨を冒して草鞋掛にて出席され臨來僅々三百余名、高岡顧問開會の辭を述べ了て講話、五時廿分閉會即時廿八名の申込者あり、能勢評議員遺族に向ひ懇切なる慰問をなし菓子を贈與され夫より一行は高岡顧問、菅井郡書記、幹事兩三名と共に腕車にて歸途北上川の邊なる觀水樓に入り晩餐の饗應を受けて歸仙奥田旅館に宿泊せり

廿八日　途中午前八時四十分仙臺發列車にて山田評議員石森主事、同行本吉郡氣仙沼町に向ふ、十一時四十分雙手驛一ノ關着石橋旅館に入り晝餐を喫し、直ちに腕車を驅り里程一里半の孤禪寺に於て下車し、是より馬車に乘替道程三里の雜衣に於て下車し、是より副馬車に乘替里程二里の千厩に着せしは午後六時卅分頃なりき、見慶旅館に宿泊せり當本吉郡は縣下第一交通不便なり（以下次號）

## 京都支部遊說記

第四回報告（何鹿郡續）　富樫　眞喜子

二月二十九日　午前十時宮島村に赴きたり、幹事部事務員室氏同行せらる、大野村よりは尾藤田中東翔の四會員宮島村迄送らる一行は十二時靜原旅舍に着す、午後二時半より小學校に於て開會、臨來約四百余名、例の如く小島郡視學閉會の趣意を述べ次に自分講話し、終に岸田顧問の演說あり、當日は農會講習員も出席せり閉會を告けしは六時なりき、一行は旅舍に歸り夕飯を喫し、卽時休憩する中に來訪者續々あり、例の如く

歩兵二等卒內藤幸太郎孫婦
故人明治三十三年役戰死、資を給して理髮業に從事せしむ（山口支部）

國家談に時を移したり、此日宮島村を距る五里餘の山路を踰えたる田貫村より青年會代表者二人來村、是非明後晩田貫村に於て一場の講話を希望する旨顧問に嘆願せしを以て、弓削村にて宿泊する豫定を縋合して同所に赴くことに決し、二人の言を容れしかば、青年は欣然として宮島村の講話終了後出發したり。

三月一日　九時宮島村出發、岸田顧問、小島郡視學、事務員、細見氏父子相伴ふて、同村を距る三里餘の內久保村に至りたり。途中平屋校にて休憩、前村長役場吏員に面接せり、郡長役場視察の爲め暫時居殘られ、野谷巳之助方に投す、平屋村よりも學校職員、生徒を引率して來られたり、同村有力者原田正元夫婦來訪、岸田顧問も來着せられたり、午後三時より光瑞寺に於て開會、臨來約三百余名、例の如く小島郡視學の開會の辭に次て、自分講話し、岸田顧問終に一場の演說をなせり、六時半閉會を告ぐ、休憩所に來れば直に同夜再び講話せんことを切望され、一同の熱心に感し快諾せり、一先旅舍に歸り夕飯を喫す、須臾にして來會者堂に溢つるを待ず直に馳せ行けば、最早立錐の餘地なし時恰も八時半なりければ休憩もせで、急ぎ登壇講話せり、畫の疲れも打忘れたる如く會集者は靜肅に聽きたり、後に郡長も一場の講話をなし、十一時半閉會せり、原田氏夫妻旅舍に來られ懇談に時を移し、金五拾圓を寄附されたり、歸宅されしは翌午前時半なりき。

三月二日　午前八時出發、岸田顧問、室事務員、原田會長同行田貫村に赴きたり、原田幹事外會員は郊端迄、原田令息は京都へ赴かるゝ序なるを以て、同村を距る三里板橋村迄同行されたり。板橋に着したるは正に十二時田貫村より青年四名迎ひの爲め來村されたり、此處にて原田氏と別れ、右の青年と室事務員同行險惡なる山路を踰え殊に神樂坂とて二十餘町の峠あり、此處をも難なく打越し、降雪霏々たる中を進み進めば、遂に目的地の田貫村に達したり、時正に三時なりき、學校職員出迎はる、宿所なる龍泉寺に入り洗足し、室內に入りたる時の心地得も言はれず、弓削村長初め同村長役場吏員青年會員等續々來訪、岸田顧問、小島視學は五時來宿されたり、同村は戸數僅に八十戸を有する小村なれども、青年會婦人會等の設立あり、殊に青年會は小島視學の非常なる刺激によりて成立ちたるものゝ由にて、實に青年會中の模範と稱するも過言にあらず午後八時より小學校に於て開會、臨來約百二十余名、例の如く小島視學の開會の辭に次て自分の講話次に顧問の演說あり、閉會を告げしは十一時半なりき。


# 販賣廣告

## 製作品目錄

○木綿足袋、紺白キヤラコ足袋、紺瓦斯足袋、純白絹天足袋其他各種小兒胸掛（エップル）西洋前掛、シャツ類

○本品は軍人遺族及癈兵家族の製作せしものにして、精選の品質を用ひ裁縫を吟味し、廉價に販賣致候間慈善同情の各位多少に拘らず御求あらんことを乞ふ

○御一報次第定價表御送付可仕候

○十足以上の御注文は市內に限り送料を申受けず

東京麹町區九段坂下牛ヶ淵
愛國婦人會
東京支部授產場販賣部
振替口座　一五一一四番
電話番町　五二〇番　一、七四五番




Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

IMPERIAL LIBRARY

# 愛國婦人會各支部職員小肖

明治四十一年七月五日（毎月二回五日廿日）發行　明治三十五年三月二十七日第三種郵便物認可

長崎支部評議員佩一等有功章　吉末まろ子

群馬支部長佩二等有功章　南部幸子

東京支部本所區幹事佩一等有功章　沼崎愛子

青森支部幹事佩二等有功章　橋本しゆん子

東京支部日本橋區幹事　大內松子

富山支部幹事佩二等有功章　石阪蕣子

發行兼印刷人山澤俊夫　編輯人永持德一　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN